

実践編

(保健学習)

○ここからの実践事例は、県内で実践された内容です。児童生徒の実態に応じて各学校での展開をお願いします。

○手引き掲載のため児童生徒観については省略して掲載しています。

1 単元名「育ちゆく体とわたし」

2 単元の目標

- ・体の発育・発達について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとすることができる。
(関心・意欲・態度)
- ・体の発育・発達について、知識を活用した学習活動により、課題の解決方法を実践的に考え、判断することができる。
(思考・判断)
- ・体の発育・発達、思春期の体の変化、よりよく発育・発達させるための生活について、基礎的な事項を理解することができる。
(知識・理解)

3 単元について

近年、児童の発育・発達は早期化の傾向にあり、この年齢の児童は、男女それぞれの体や心に変化が生じる思春期の入り口にある。少しずつ異性への関心が芽生え始めるとともに、発育・発達の個人差が目立ち始める時期でもある。

本単元では、これから大人の体へと変化していく児童に、体の発育・発達のメカニズム、体をよりよく成長させるために必要な生活の仕方を理解させると同時に、体と心の深い関わりに気づかせ、思春期の体と心の変化について理解を深めさせることをねらいとしている。

指導にあたっては、初経、精通等を大人の体に近づく具体的な現象として捉えさせ、これから起こる体や心の変化に対して不安を抱かせないように指導する。さらに、自分の体の変化や個人による発育の違いなどについては、自分のこととして実感させ肯定的に受け止められるよう配慮する。

4 単元計画

(1) 単元の評価規準

	ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての 思考・判断	ウ 健康・安全についての 知識・理解
単元 の 評 価 規 準	体の発育・発達について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	体の発育・発達について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより実践的に考え、判断しそれらを表している。	体の年齢に伴う変化や個人差、思春期の体の変化、よりよく発育・発達させるための生活について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
学習 活動 に 即 した 評 価 規 準	①体の発育・発達について、教科書や資料などを見たり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組もうとしている。	①体の発育・発達について、教科書や友達の話などを基に、課題や解決の方法を見つけたり選んだりするなどしてそれらを説明している。	①体の年齢に伴う変化や個人差について理解したことを言ったり書いたりしている。 ②思春期の体の変化について理解したことを言ったり、書いたりしている。

学習活動に即した評価規準	②体の発育・発達について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの学習活動に進んで取り組もうとしている。	②体の発育・発達について、学習したことを自分の成長や生活と比べたり関係を見つけたりするなどしてそれらを説明している。	③体をよりよく発育・発達させるための生活について理解したことを言ったり、書いたりしている。
--------------	--	--	---

(2) 指導計画

	日 時	活 動 内 容
第1時	○月○日 第○校時	<p>体の発育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生から4年生までの身長なのびを、グラフを使ってチェックする。 ・年齢に伴う身長や体重の変化を知り、気づいたことや考えたことを話し合う。 ・発育や体の変化には個人差があることを知る。 ・学習のまとめをする。
第2時	○月○日 第○校時	<p>思春期の体の変化①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シルエットを見ながら、年齢に伴う男女の体つきの変化について話し合う。 ・思春期に起こる男女の体つきの変化について、ワークシートを使って考え、話し合う。 ・データや体験談等の資料から、思春期に起こる体の変化や時期には個人差があることを知る。
第3時 (本時)	○月○日 第○校時	<p>思春期の体の変化②、思春期の心の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期に起こる、体の中の変化（月経や射精）のしくみを知る。 ・グラフや体験談等の資料から、月経や射精は誰にでも起こること、また、その時期には個人差があることを知る。 ・異性への関心について教科書でチェックし経験談を出し合いながら、思春期には心にも変化が起こることを知る。
第4時	○月○日 第○校時	<p>体のよりよい発育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食の献立を使い、よりよく発育・発達させるための調和の取れた食事の必要性に気づく。 ・食事、運動、休養・睡眠を関連付け、よりよく発育発達させるための生活の仕方について知る。 ・自分の生活を振り返り、今後の生活の目標を立てる。

5 本時の学習

(1) 目標

思春期に起こる体と心の変化を知り、その変化には個人差があることを理解して肯定的に受け止めることができる。(知識・理解)

(2) 展開

	主な学習内容	○指導上の留意点 ◇評価	資料等
導入 (5分)	1 前時の復習をする。 ・前時のワークシートを見ながら全体で確認する。	○目に見える変化の他に変声などの変化も起こることを復習し、本時の課題につなげる。	・前時のワークシート
展開 (35分)	2 学習のねらいを知る。		
	体の中では、どのような変化が起こるのだろう。		
	3 思春期には、「初経」「精通」が起こることと、その仕組みについて知る。	○初めて知ることが多く理解しにくい児童もあることを考慮し、具体物を使って分かりやすく説明する。	・黒板説明用掲示物(月経、精通のしくみ ・精子、卵子の写真・精子や卵子の動きを示すもの) ・ワークシート ・掲示用グラフ
	4 体の中の変化も、誰でも起こることであり、個人差があることを知る。	○グラフを提示し、思春期における初経や精通の現れる時期に違いがあることを読み取らせる。 ◇思春期には初経や精通が起こること、これらには個人差があるものの、大人の体に近づく現象であることを理解し、発表したり書いたりすることができる。 【知識・理解】	
5 教科書の資料を読み、教師の体験談を聞く。	○さまざまな家庭環境を考慮しながら、大人に近づく喜びや期待を持たせるように体験談を交えて話をする。	・教科書資料(体験談)	
6 異性への関心について、教科書のチェック欄を通して考える。	○男女がお互いを思いやることの大切さを伝えながら、異性への関心についての学習につなげる。	・教科書資料(「やってみよう」異性への関心のあらわれ方)	

	7 経験談を発表し合い、思春期の変化は体だけでなく、心も変化すること知る。	○異性への関心の芽生えなども大人に近づく変化であり、心の変化にも個人差があることを伝える。	
まとめ (5分)	8 教師の話聞き、ワークシートで本時のまとめをする。	○学習を通しての質問、不安や心配に感じたことはいつでも相談するよう伝える。	・ワークシート

6 資料等

前時のワークシート、黒板説明用掲示物(月経のしくみ、射精のしくみ、精子や卵子の拡大写真、精子や卵子の動きを示すもの、個人差を示すグラフ)、ワークシート

<育ちゆく体とわたし> ワークシート

☆からだの中の変化やしぐみについて と () の中に言葉を入れましょう。

男子

【男子】

男子

思春期に起こる体の中の変化を
(①)
といい、初めての(①)のことを
(②)
といいます。

女子

【女子】

女子

思春期に起こる体の中の変化を
(①)
といい、初めての(①)のことを
(②)
といいます。

☆今日の学習でわかったことや感想を書きましょう。

第5学年 体育科（保健） 学習指導案

1 単元名「心の健康」

2 単元の目標

○心の発達、心と体とのかかわり、不安や悩みへの対処の仕方に関心を持ち、進んで学習活動に取り組もうとする。（関心・意欲・態度）

○心の健康について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動により、実践的に考え、判断し、それらを表すことができる。（思考・判断）

○心はいろいろな生活経験を通して年齢とともに発達すること、心と体は密接な関係にあり、互いに深く影響しあっていることが分かり、自分にあった不安や悩みの対処の仕方について理解することができる。（知識・理解）

3 単元について

本単元「心の健康」の学習は、「心は、いろいろな生活経験を通して、年齢とともに発達すること」「心と体には、関係があり互いに影響しあっていること」「不安や悩みへの対処の仕方は、大人や友達に相談する、仲間と遊ぶ、運動するなどいろいろな方法があること」を理解させ、児童一人ひとりが自他の健全な成長を願いつつ、それぞれの人間関係の中で健康に過ごすためには、どうすればよいかを考え実践しようとすることをねらいとしている。

指導にあたっては、心の発達や心と体のつながりに関する学習で、心とは何かということを考えさえ、これまでの生活経験を振り返り具体的な事例をもとに考え、グループで話し合ったり、友達の意見を聞いたりすることにより、心と体の相互関係に気づかせ課題意識を持たせたい。また、養護教諭とティームティーチングで行い、脳や神経などのメカニズムや心と体の相互関係を専門的な観点からも理解を深めたい。不安や悩みの対処法に関する学習では、グループで話し合いを取り入れ、様々な対処法にふれるとともに、自分にあった対処法を実践的な活動によって見出せるようにしたい。また、不安や悩みは、成長過程で誰もが持つものであり、その解決を繰り返すことでより成長することを理解させ、不安や悩みに対する前向きな心や態度を育てたい。

4 単元計画

(1) 単元の評価規準

	ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての 思考・判断	ウ 健康・安全についての 知識・理解
単 元 の 評 価 規 準	心の健康について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	心の健康について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、実践的に考え、判断し、それらを表している。	心の発達、心と体の相互の影響、不安や悩みへの対処について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。

学習活動に即した評価規準	<p>①心の健康について、教科書や資料などを見たり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組もうとしている。</p> <p>②心の健康について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの活動に進んで取り組もうとしている。</p>	<p>①心の健康について、教科書や友達の話などを基に、課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している。</p> <p>②心の健康について、学習したことを自分の生活と比べたり、関係を見付けたりするなどして、それらを説明している。</p>	<p>①心の発達について理解したことを言ったり、書いたりしている。</p> <p>②心と体の相互の影響について理解したことを、言ったり書いたりしている。</p> <p>③不安や悩みの対処について理解したことを言ったり、書いたりしている。</p>
--------------	---	--	--

(2) 指導計画

時	学習内容・活動	評価規準			評価方法
		関 心 意 欲 態 度	思 考 判 断	知 識 理 解	
	<心の発達>				
	<p>心には、「感情」「社会性」「思考力」などの働きがあり、これらの働きは脳で行われていることを知らせ、興味を持たせる。また、心は、遊びや学習、自然体験、人とのかかわりなどいろいろな生活経験を通して、年齢とともに発達することを理解できるようにする。</p>				
1	<p>学習活動</p> <p>1 「心」はどこにあり、どのような働きがあるのか話し合い発表する。</p> <p>2 心の発達の仕方について調べる。5歳の頃と今の自分との友達への関わり方を想起させ、教科書や資料・DVDや自分の経験をもとにワークシートにまとめ、グループで話し発表する。</p> <p>3 心が発達する要因について考え、たくさんの人とのよりよい関わりが影響することを理解させ学習のまとめをする。</p>	①		①	<p><関・意・態－①> (学習活動2)</p> <p>心の健康について、教科書や資料などを見たり、自分の生活を振り返ったりするなどの学習活動に進んで取り組もうとしている状況を【観察】でとらえる。(ア－①)</p> <p><知・理－①> (学習活動3)</p> <p>心の発達について理解したことを言ったり、書いたりしている状況を【観察やワークシート】でとらえる。 (ウ－①)</p>

<p><心と体の相互の影響></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> <p>自分の生活経験を想起させることを通して、心と体は密接な関係にあり、互いに影響しあっていることに気づき、理解することができるようにする。</p> </div>				
2 (本時)	<p>学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 心の動きで体が反応することを実感する。 2 不安な時、緊張した時、うれしい時などの体の様子と、体調のよい時・悪い時の心の様子について考え発表しあう。 3 ホルモンや脳、神経についての働きや、生活習慣と心と体との関係、不安や悩みのある状態が長時間続いたらどうなるかを養護教諭から聞く。 4 学習のまとめをする。 	②	②	<p>〈関・意・態－②〉 (学習活動2)</p> <p>心の健康について、課題の解決に向けての話し合いや発表などの活動に進んで取り組もうとしている状況を【観察やワークシート】でとらえる。 (ア－②)</p> <p>〈知・理－②〉 (学習活動4)</p> <p>心と体の相互の影響について理解したことを、言ったり書いたりしている状況を【観察やワークシート】でとらえる (ウ－②)</p>
<p><思春期の心の健康></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;"> <p>不安や悩みがあるということは誰もが経験することであり、そうした場合には、身近な人に相談すること、仲間と遊ぶこと、運動をしたり音楽を聴いたりすることなど、いろいろな方法があることを知り、自分にあった方法で対処できることを理解できるようにする。</p> </div>				
3	<p>学習活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 事前にアンケートを実施し、結果を掲示し、分かったことや気づいたことを発表する。 2 不安や悩みにどのように対処していったらよいのかを話し合う。グループごとにブレインストーミングを行う。 3 多様な対処法の良い点を紹介しあう。 	①	①	<p>〈思・判－①〉 (学習活動2)</p> <p>心の健康について、教科書や友達の話などを基に、課題や解決の方法を見付けたり、選んだりするなどして、それらを説明している状況を【ブレインストーミングの様子】でとらえる。 (イ－①)</p>

<p><心の健康アドバイス></p> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 80%;">不安や悩みへの対処の仕方について、話し合い等を通して理解を深めることができる。</p>			
4	<p>学習活動</p> <p>1 グループで不安や悩みを出し合い、対処の仕方についてアドバイスをする。</p> <p>2 友達のいいところを見つけ、カードを交換する。</p> <p>3 事前に、家の人に書いてもらっていた手紙（自分のよさや家族に大切にされていることが実感できるような手紙）を読む。</p> <p>4 単元のまとめをする。</p>	②	<p>③</p> <p>〈知・理③〉 (学習活動1) 不安や悩みの対処について、話し合い等を通して理解を深めている状況を【観察】でとらえる。(ウー③)</p> <p>〈思・判ー②〉 (学習活動4) 心の健康について、学習したことを自分の生活にあてはめ、それらを説明している状況を【ワークシート】でとらえる。(イー②)</p>

5 本時の学習

(1) 目標

自分の生活経験を想起させることを通して、心と体は密接な関係にあり、互いに影響しあっていることに気づき、理解することができる。(知識・理解)

(2) 展開 心と体の相互の影響 (2/4)

時間	学習内容	学習活動 主な発問・予想される児童の反応	○指導上の留意点 ◎支援 ◇評価【方法】
導入 (5分)	1 本時の課題を確かめる。	<p>○心の動きで体が反応することを実感する。(ドキドキ体験)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>これから一人で歌を歌ってもらいます。何を歌うか1分間で考えましょう。<T1></p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>考えている時にどんな気持ちになったかな。体に何か変化はあったかな。<T1></p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ドキドキした ・手に汗がでた ・わくわくした 	○子ども達に緊張する場面を与える。<T1>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 80%; margin: 0 auto;"> <p>私たちの心と体は、どのように関わっているのだろう。</p> </div>			

<p>展開 (25分)</p>	<p>2 心と体のかかわりについて考える。</p>	<p>○不安な時、緊張した時、うれしい時などの体の様子と、体調のよい時・悪い時の心の様子について考え発表しあう。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>自分の今までの経験から、様々な場面での心や体の様子について考えワークシートに記入し、グループで出し合おう。 < T 1 ></p> </div> <p>体の様子について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊張している時 心臓がドキドキする、手に汗がでる、体が硬くなる ・心配なことがある時 夜ねむれなくなる、食欲がなくなる ・悲しい時 涙がでる ・うれしい時、楽しい時 ぐっすり眠れる、よく動く、よく食べる、体が軽く感じる <p>心の様子について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体調がよい時 心が軽くなる、やる気がでる、うきうきする ・体調が悪い時、睡眠不足の時 いらいらする、落ち込む、やる気が出ない、集中力がなくなる 	<p>○導入発問に対しての体の反応をきっかけに、自分の経験を振り返らせる。 < T 1 ></p> <p>◎自分の考えが持てるようにワークシートに記入させる。 < T 1 ></p> <p>◎記入に困っている児童には個別に声をかける。 < T 2 ></p> <p>○発表の際には、絵カードを使って黒板上で分類しながら、心と体の様子を示し、心と体のつながりが分かるように板書する。 < T 2 ></p> <p>◇ (関心・意欲・態度) 心の健康について、課題の解決に向けての話し合い、発表などの活動に進んで取り組もうとしている【観察・ワークシート】</p>
<p>(10分)</p>	<p>3 心と体のつながりの仕組みを知る。</p>	<p>○ホルモンや脳、神経についての働きや、生活習慣と心と体との関係、不安や悩みのある状態が長時間続いたらどうなるかを養護教諭から聞く。 < T 2 ></p>	<p>○脳と体の各部分が、神経によってつながっていることを理解させる。 < T 2 ></p> <p>◎図や絵など視覚教材を使い、心臓がドキドキすることや腹痛・頭痛が起こる体の仕組みを説明し、心と体が互いに影響しあっていることをとらえさせる。 < T 2 ></p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>4 本時のまとめと次時の予告をする。</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>本時の学習の振り返りをワークシートに記入しよう。 < T 1 ></p> </div> <p>○次時の予告を聞く。 < T 1 ></p>	<p>◇ (知識・理解) 心と体が互いに影響しあっていることを理解している。【ワークシート・観察】</p> <p>○次時は、悩みや不安が大きくならないうちに解決する方法を考えることを予告する。 < T 1 ></p>

心と体の相互の影響

心と体のかかわり

年 組 ()

名前

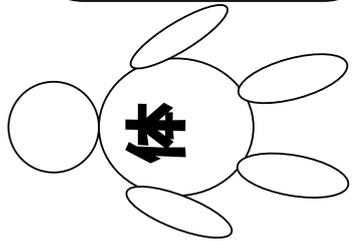
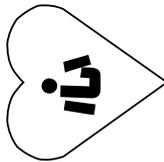


1 どんな気持ちになったかな？

2 心と体はどのようにかかわりあっているのだろうか。

うれしい・楽しい

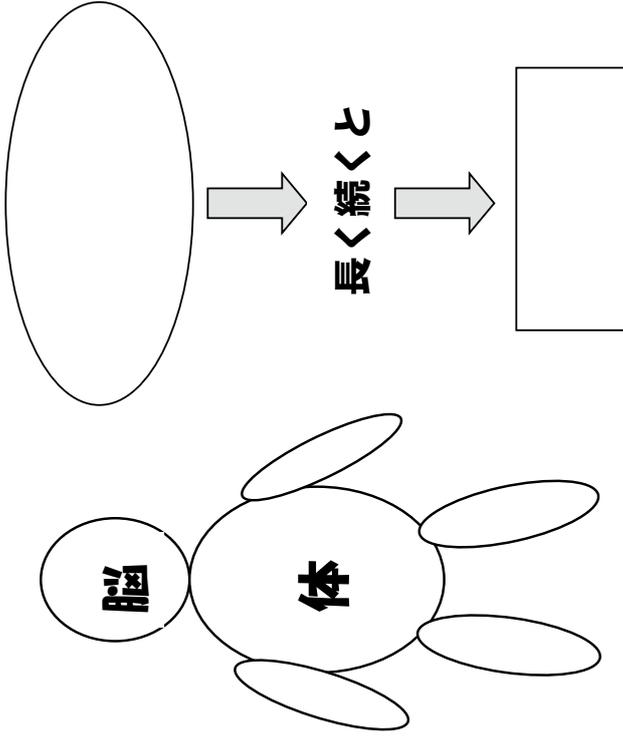
不安やきんちよう



体調がよいとき

体調が悪いとき

3 心と体はつながっていているのかな？



4 今日の学習でわかったことを書きましょう。

1 単元名 心身の機能の発達と心の健康 「生殖機能の成熟」

2 単元の目標

- ・心身の機能の発達と心の健康について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとする。 【関心・意欲・態度】
- ・心身の機能の発達と心の健康について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表すことができる。 【思考・判断】
- ・身体機能の発達、生殖にかかわる機能の成熟、精神機能の発達と自己形成、欲求やストレスへの対処と心の健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解できる。 【知識・理解】

3 単元について

中学生期は、二度目の発育急進期にあたり、身体の各器官が急速に発育・発達する。また、様々な経験を通して精神も発達し、自己形成がなされる大切な時期である。心身共に限りなく大人に近い状態になっていくため、身体の機能の発達について正しい知識を持つことが大切であると共に精神機能の発達は生活体験や学習に影響されることを知り、欲求やストレスに対処しながら心身の調和を保ち、心を健康に生きていく力が必要である。本単元は、身体の各器官の発育・発達について小学校での学習をベースに、よりくわしく学習し、自身の発育・発達とも重ね合わせて考えることにより、性に関する適切な態度を身につけさせることができると考えられる。また、精神機能の発達を学習することにより、日常の生活態度が前向きになったり、自分に合った欲求やストレスの対処法を考えたりすることができるようになると考えられる。

指導にあたっては、まず、小学校で学んだことを思い出させたり、自身の体や心の変化を考えさせたりする。個人差はあるが、多くの生徒が思春期の体や心の変化を実際に感じているため、戸惑いや悩みが出始める時期に身体の発育・発達や男女の性機能のしくみを理解させ、自己や異性を大切に、尊敬し合える気持ちを育てたい。また、様々な経験や学習、人との関わりが心の発達に大きく影響することをおさえ、具体的な場面や方法をあげながら自分のこととして考えられるようにする。一連の保健学習が、心身の調和がとれ、心が健康で充実した人生の土台を築くきっかけとなるようにしたい。

4 単元計画

(1) 単元の評価規準

	ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての 思考・判断	ウ 健康・安全についての 知識・理解
単 元 の 評 価 規 準	心身の機能の発達と心の健康について関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	心身の機能の発達と心の健康について、課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、科学的に考え、判断し、それらを表している。	身体機能の発達、生殖にかかわる機能の成熟、精神機能の発達と自己形成、欲求やストレスへの対処と心の健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解している。
学 習 活 動 に 即 した 評 価 規 準	①心身の機能の発達と心の健康について、健康に関する資料を見たり、自分たちの生活を振り返ったりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ②心身の機能の発達と心の健康について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	①心身の機能の発達と心の健康について、健康に関する資料等で調べたことを基に、課題や解決の方法を見つけたり、選んだりするなどして、それらを説明している。 ②心身の機能の発達と心の健康について、学習したことを自分たちの生活や事例などと比較したり、関係を見つけたりするなどして、筋道を立ててそれらを説明している。	①身体機能の発達について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ②生殖に関わる機能の成熟について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ③精神機能の発達と自己形成について理解したことを言ったり、書き出したりしている。 ④欲求やストレスの対処と心の健康について理解したことを言ったり、書き出したりしている。

(2) 指導計画

	日 時	活 動 内 容
事前	○月 ○日 保健体育 ○月 ○日 保健体育 ○月 ○日 保健体育	からだの発育・発達 呼吸器・循環器の発育・発達 性機能の成熟—①
本時	○月 ○日 保健体育 第○校時	性機能の成熟—②
事後	○月 保健体育	異性の尊重と性情報への対処 知的機能と情意機能の発達 社会性の発達と自己形成 心とからだのかかわり 欲求の発達 ストレスと心の発達 ストレスへの対処と心の健康

5 本時の学習

(1) 目標

思春期にはホルモンの働きによって生殖機能が成熟することを理解し、月経や妊娠についての説明を言ったり書き出したりしている。(知識・理解)

(2) 展開

	主な学習内容	○指導上の留意点 ◇評価	資料等
導 入 (5分)	1 本時のめあてを確認する。 女子の生殖機能の発達と、月経・妊娠のしくみについて説明できるようにしよう！		
	2 性腺刺激ホルモンのはたらきがおよぼすからだの変化について確認する。	○男女それぞれのからだのどの生殖器に影響するのか確認する。	前時ワークシート
展 開 (40分)	3 キーワードカードと生殖器の拡大資料を使って月経、妊娠のしくみについて説明する。	○拡大資料を使って、卵子の動きや機能している器官を指差しながら説明していく。	キーワードカード 卵巣 卵子 排卵 卵管 子宮 受精 子宮内膜 精巣 精子 受精卵 着床 生殖器(女子)拡大資料
	4 ペアで月経、妊娠のしくみを説明し合う。 ・月経について説明しよう！ ・妊娠について説明しよう！ 正しい説明ができている生徒は全体場で発表させる。 5 教科書「考えてみよう」のアドバイスを考え、発表する。 ・Aさん、Bさんへどのようなアドバイスをしたらよいだろう。 ⇒個人差があるから心配しないでよい。 ⇒自分も同じ悩みがあるよ。	○説明役と聞き役になってペア学習をすすめさせる際、説明に困ったら、聞き役のほうにキーワードカードをヒントとして出させる。 ◇月経、妊娠についてのしくみを理解して、図を指しながらペアに説明することができる。 (ペア学習行動観察) ○生殖機能の成熟、からだの発育・発達には個人差があることをおさえる。	
ま と め (5分)	6 本時の学習と感想をワークシートにまとめる。 7 教師の話を書く。	○まとめさせる際、必要に応じて教科書の確認や説明を加える。 ○これらの変化は新しい生命を作り出す大人へ成長したということをおさえる。	ワークシート

1 単元名 保健 (1) 現代社会と健康 イ 健康の保持増進と疾病の予防

2 単元の目標

我が国の疾病構造や社会の変化に対応して、健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。

イ 健康の保持増進と疾病の予防

健康の保持増進と生活習慣病の予防には、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践する必要があること。

喫煙と飲酒は、生活習慣病の要因になること。また、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと。それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であること。

感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。その予防には、個人的及び社会的な対策を適切に行う必要があること。

3 単元について

本単元では、現代社会における健康や安全に関する諸問題が多様化していることに対処するため、生徒自らが心身の健康の保持増進を積極的に意識し、自身の生涯にわたる様々な生活ステージにおいて、適切な意志決定や行動選択をするための思考力・判断力、知識・技能等の育成を目指す。

本時は、その中の「性感染症・エイズとその予防」の2時間目として、エイズの実態、感染経路、予防や個人及び社会としての対策等を学習する中で「エイズがなかなか減少せず、逆に増加傾向にあるのはなぜだろうか?」ということを考え、将来の自分自身の生活にリンクさせて身近な問題としてとらえさせたい。

受動的な知識の習得だけに終わることなく、知識構成型ジグソー法の活用等によってアクティブ・ラーニングを意識した指導を行う。生徒が主体的なグループ活動を展開する中で、将来、適切な意思決定と行動選択につながるような思考力・判断力の基盤となるものを身につけさせたい。

4 単元計画 (総時間数 35 時間)

(1) 単元の評価規準

	ア 健康・安全への 関心・意欲・態度	イ 健康・安全についての 思考・判断	ウ 健康・安全についての 知識・理解
単元 の 評 価 規 準	現代社会と健康について、健康を保持増進するためには、自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることに関心をもち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	現代社会と健康について、健康を保持増進するための課題の解決を目指して、知識を活用した学習などにより総合的に考え、判断し、それらを表している。	現代社会と健康について、健康を保持増進するための課題の解決に役立つ自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくための基礎的な事項を理解している。

<p>学習活動に即した評価規準</p>	<p>①生活習慣病と日常の生活行動について、資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 ②喫煙、飲酒と健康、薬物乱用と健康、感染症とその予防について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習に意欲的に取り組もうとしている。</p>	<p>①生活習慣病と日常の生活行動について、資料等で調べたことを基に、課題を見つけたり、整理したりするなどして、それらを説明している。 ②喫煙、飲酒と健康、薬物乱用と健康、感染症とその予防について、学習したことを個人及び社会生活や事例と比較したり、分析したり、評価したりするなどしている。また、筋道を立ててそれらを説明している。</p>	<p>健康の保持増進と生活習慣病の予防には、食事、運動、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践する必要があること、喫煙と飲酒は、生活習慣病の要因になること、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと、喫煙と飲酒、薬物乱用の対策には、個人や社会環境への対策が必要であること、感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること、感染症の予防には、個人的及び社会的な対策を行う必要があることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。</p>
---------------------	---	--	---

(2) 指導計画

内容の まとめ	単 元	小 項 目
現代社会と健康	ア 健康の考え方（4時間）	(ア) 国民の健康水準と疾病構造の変化
		(イ) 健康の考え方と成り立ち
		(ウ) 健康に関する意思決定や行動選択
		(エ) 健康に関する環境づくり
	イ 健康の保持増進と疾病の予防（15時間）	(ア) 生活習慣病と日常の生活行動
		(イ) 喫煙、飲酒と健康
		(ウ) 薬物乱用と健康
		(エ) 感染症とその予防
	ウ 精神の健康（5時間）	(ア) 欲求と適応規制
		(イ) 心身の相関
		(ウ) ストレスへの対処
		(エ) 自己実現
	エ 交通安全（5時間）	(ア) 交通事故の現状
		(イ) 交通社会に必要な資質と責任
		(ウ) 安全な社会づくり
	オ 応急手当（6時間）	(ア) 応急手当の意義
(イ) 日常的な応急手当		
(ウ) 心肺蘇生法		

5 本時の学習

(1) 目標

各活動場面（エキスパート活動・ジグソー活動・クロストーク活動）において、資料や教科書を適切に活用したり、分析したりしながら、自分の意見や考えを発表できる。

エイズを正しく理解し、エイズの特徴や感染経路、予防のための個人的な対策や社会の取り組みについて学ぶ中から、日本におけるエイズが増加傾向にあるのはなぜかを考察する。

(2) 展開

時間	生徒の学習活動	指導・支援上の配慮事項 ◆評価	配布物等
導入 (5分)	1 感染症及び性感染症の学習を振り返る	<ul style="list-style-type: none"> *確認しておきたい事項 → 感染症予防の原則 → 性感染症の特徴 *エイズが増加傾向にあることを教科書や資料によって認識させる。 	
展開 (35分)	課題：「エイズがなかなか減少せず、逆に増加傾向にあるのはなぜだろうか？」		<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート ・エキスパート A. B. C
	<p>1 エキスパート活動（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> *エキスパート活動班に移動 → 3人×12グループ *各エキスパート班でそれぞれの内容について調査・分析する。 → ABC各4班ずつ割り当て <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>A：エイズってどんな病気？ B：HIVの感染経路は？ C：エイズの予防対策は？ (個人の対策・社会の取組)</p> </div> <p>2 ジグソー活動（15分）</p> <ul style="list-style-type: none"> *ABC各1名ずつの3人として3人×12グループに再編成 * (1)：各エキスパート活動で理解を深めた内容を班内のメンバーに説明する。 → 聞き手は自分のワークシートに書きとめながら、他のエキスパートの説明について理解を深める。 * (2)：(1)で得たエイズに関する学習内容から「エイズがなかなか減少せず、逆に増加傾向にあるのはなぜだろうか？」について、班のメンバーで考え、発表用シートに記入する。 <p>3 クロストーク活動（10分）</p> <ul style="list-style-type: none"> *グループでまとめた結果をクラス全体に発表し、意見や考えを共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> *教科書や配布した資料を参考に、ワークシートのQ&Aに答える形式で各エキスパートの内容を深めさせる。 *エキスパート活動によって深めた内容が今後のジグソー活動やクロストーク活動の基本となり、さらには課題を考察していく上で大きな役割を果たすことを意識させる。 ◆関心・意欲・態度 *ジグソー活動班の移動先を図示する。 → 移動に時間を費やさない工夫。 *他のメンバーから聞いたことを基に自分で考えたりまとめたりして、ABCの流れでわかりやすくエイズについて説明できることを意識させる。 *机間巡回などにより、生徒の活動状況を把握する。 ◆思考・判断 *ジグソー活動* (1)により学んだことを班員が協力して活用することによって、課題に対して納得できる答えを導き出すように指導する。 *机間巡回をしながら各グループの記載内容をチェックし、発表班を考えておく。 *各班の代表者を決めて、グループ内で導き出した課題に対する答えを発表する。 ◆知識・理解 	

まとめ
(10分)

1 本時の学習から、エイズを含む性感染症に対して、将来、自分自身がどのような意思決定や行動選択をしていくべきかを考える。

*生徒発表の中に「おさえておきたいポイント」の不足があれば補足する。

- ・正しい理解により差別のない社会
- ・エイズの特徴
長い潜伏期間
→自覚症状がなく感染源となり得る
早期発見により発症を防げる
- ・予防法
→正しいコンドームの使用
→不特定多数との性行為NG
- ・性に関する倫理観、自他を大切にする気持ち

・資料2

9 参考文献等

- 高等学校学習指導要領解説保健体育編（文部科学省：平成21年12月）
- 評価基準の作成，評価方法等の工夫改善のための参考資料（高等学校保健体育）
～新しい学習指導要領を踏まえた生徒一人一人の学習の確実な定着に向けて～
（国立教育政策研究所教育課程研究センター：平成24年7月）
- 平成25年度国立教育政策研究所教育課程研究センター指定事業研究協議会資料



協調学習・知識構成型ジグソー法の概要とイメージ

1 概要

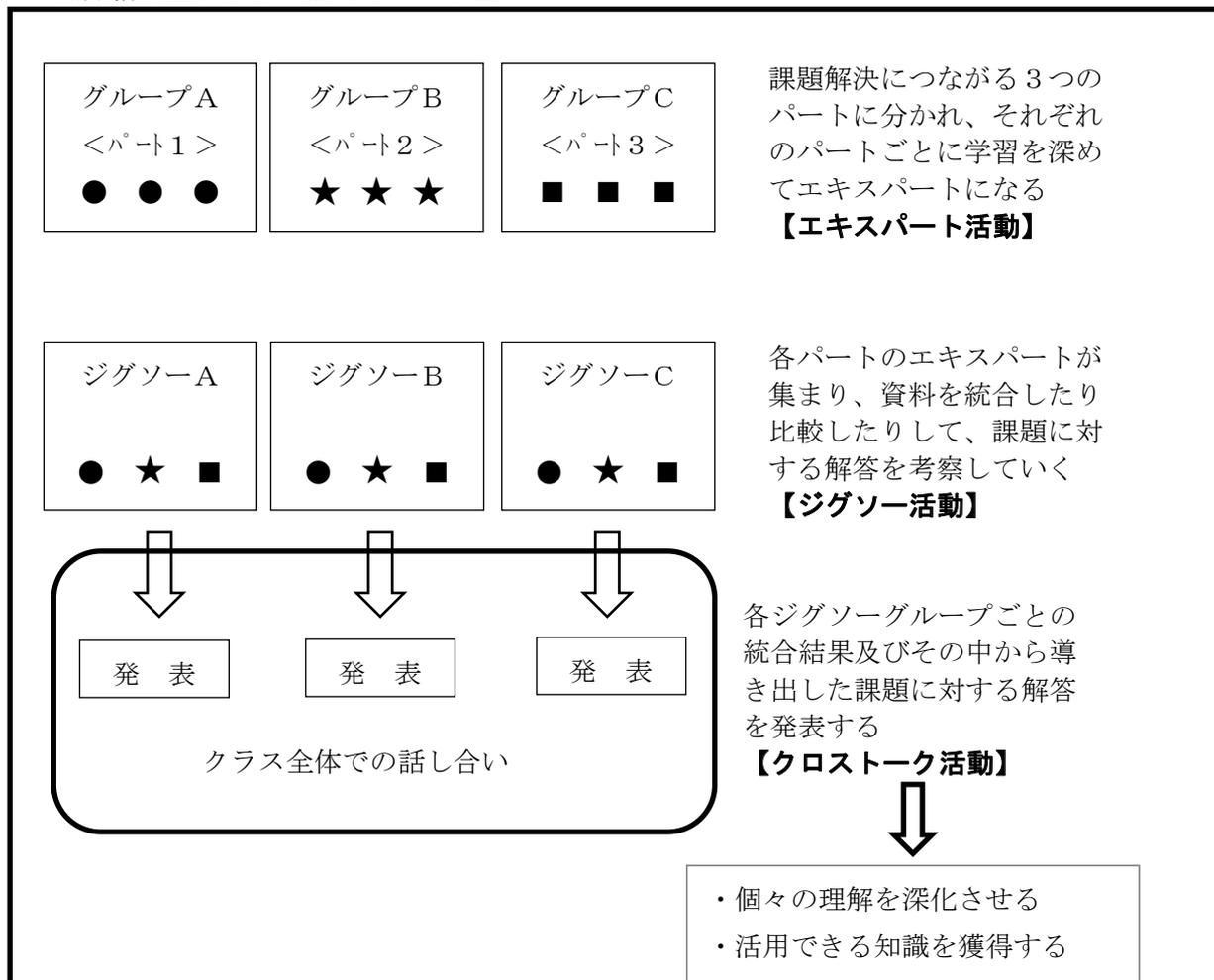
「知識構成型ジグソー法」とは、協調学習を教室で引き起こすために、東京大学大学発教育支援コンソーシアム推進機構が提唱している、複数の生徒が異なった知識や考えを持ち寄り、それらを統合して問題を解く協調的な問題解決方法である。

この学習法は、一人一人の学び方の違いを認め、他者と相互に関わりながら、それぞれが理解を深めていく学び（建設的相互作用）を意図的に引き起こす学習法である。これは、21世紀型スキルの習得にも効果的な学習方法であると考えられている。

2 特徴

他者に説明することによる知識の構築と、他者の説明を聞きながら自分の考えを深めていく活動を、それぞれ立場を交代しながら行うことによって課題を解決していくことが本学習方法の特徴である。

3 知識構成型ジグソー法のイメージ図



参考：平成25年度国立教育政策研究所教育課程研究センター
指定事業研究協議会資料より

性感染症・エイズとその予防

1年__組 (____) 氏名_____
エキスパート班 (____) ジグソー班 (____)

【本日の課題】

「エイズがなかなか減少せず、逆に増加傾向にあるのはなぜだろう？」

はじめに・・・

「エイズがなかなか減少せず、逆に増加傾向にあるのはなぜだろう？」

学習する前に、自分なりの意見や考えを書き出してみよう！

Step 1 エキスパート活動

- (1) それぞれに配布されたエキスパート資料の内容について、理解を深めよう！
- (2) 自分の担当エキスパートを確認しよう！ ⇒ [A ・ B ・ C] ○で囲む

エキスパートA：エイズってどんな病気？

エキスパートB：エイズの感染経路は？

エキスパートC：エイズの感染予防やまん延防止の対策は？

Step 2 ジグソー活動

- (1) Step 1 のエキスパート活動で学習した内容を班のメンバーに伝えよう！
- (2) 他の人が伝えてくれた内容をメモをしてエイズについての学習を深めよう！

※ エキスパート【 】 () さんの説明

※ エキスパート【 】 () さんの説明

☆各エキスパートの発表が終わったら、班で話し合い、まとめてみよう！☆

「エイズとはどんな病気なのか?」「エイズの感染経路は?」「エイズの感染予防やまん延防止策は?」
という3つの面から「エイズがなかなか減少せず、逆に増加傾向にあるのはなぜだろう?」という課題
に対する解答を考え、書き出してみよう!

⇒ 班でまとめた内容を「どこでもシート」に書き出し、クラスで共有できるよう準備しておこう。

※「どこでもシート」とは、各班がまとめた意見を書くシートのこと。模造紙でもよい。

Step 3 クロストーク活動

- (1) ジグソー活動で意見をまとめた「どこでもシート」をホワイトボードに張り付ける。
- (2) 新たな気づき（他の意見やなるほどと思ったこと等）があればメモしよう。

Step 4 まとめ（授業の最後に）

- (1) クロストークをふまえ、「エイズがなかなか減少せず、逆に増加傾向にあるのはなぜだろう?」についてまとめてみよう!

エイズが減らない理由は、

<最後に・・・>

※ 今日の学習で学んだこと（性感染症・エイズとその予防）を基に、今後の自分自身の「意思決定」や「行動選択」において、気をつけたいと思ったことを書いてみよう。

Step 1

エキスパート活動A 「エイズってどんな病気？」

資料は、『厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV 検査相談の充実と利用機会の促進に関する研究」(研究代表者：加藤真吾)』より抜粋

1 HIVって何？

HIV とは、Human Immunodeficiency Virus (ヒト免疫不全ウイルス) のことで、ヒトの体をさまざまな細菌、カビやウイルスなどの病原体から守る(このことを“免疫”といいます)のに大変重要な細胞である、T リンパ球やマクロファージ (CD4 陽性細胞) などに感染するウイルスです。HIV は大きく分けて、HIV 1 型と HIV2 型があります。

2 エイズって何？

HIV が T リンパ球やマクロファージ (CD4 陽性細胞) などに感染した結果、これらの細胞の中で HIV が増殖します。このため、免疫に大切なこれらの細胞が体の中から徐々に減っていき、普段は感染しない病原体にも感染しやすくなり、さまざまな病気を発症します。この病気の状態をエイズ (AIDS : Acquired Immuno-Deficiency Syndrome、後天性免疫不全症候群) と言います。代表的な 23 の疾患が決められており、これらを発症した時点でエイズと診断されます。

(代表的な疾患の例：カポジ肉腫、カリニ肺炎 等 23 の疾患が決められている)

☆ ジグソー活動に向けて説明できるよう、教科書やこの資料から分かることをまとめておこう！

(1) 病原体は何？ _____

(2) 潜伏期間は？ _____

(3) 症状は？ _____

(4) その他のエキスパート情報

Step 1

エキスパート活動B 「HIVの感染経路は？」

資料は、『厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「HIV 検査相談の充実と利用機会の促進に関する研究」(研究代表者：加藤真吾)』より抜粋

<HIVはどうやって感染するの？>

HIVは血液、精液、膣分泌液、母乳などに多く分泌されます。唾液、涙、尿などの体液では他のヒトに感染させるだけのウイルス量は分泌されていません。感染は、粘膜（腸管、膣、口腔内など）及び血管に達するような皮膚の傷（針刺し事故等）からであり、傷のない皮膚からは感染しません。そのため、主な感染経路は次の3つと考えられます。

(1) 性行為による感染

HIV感染は、性行為による感染が最も多いです。

(2) 血液感染

輸血、注射器・注射針の共用による麻薬の回し打ち、医療現場による針刺し事故などから、感染者の血液が他のヒトの血管中に侵入することにより感染が成立します。麻薬や覚せい剤を注射器・注射針を共用して回し打ちをすることは、HIV感染のみならず、C型肝炎についても非常に感染率が高くなります。輸血については、現在、日本赤十字社においてすべての献血血液について非常に厳格なHIV検査を実施しているため、感染の危険性は極めて低いです（ただし、献血のHIV検査結果は献血者本人にはお伝えしていません）。医療現場による針刺し事故は主として医療従事者に起こりえますが、注射針の安全な取り扱い、適切な廃棄、また、万が一HIV感染者の血液により暴露事故が起こってしまった場合には、2時間以内に抗HIV薬の予防内服を行うことによって、感染の危険性を低下させることができます。

※ かつての原因であった「血液製剤」による感染は、現在は無いといっています。

(3) 母子感染

母子感染は、出産時の産道感染、母乳哺育による感染、胎内感染があげられます。このため、母子感染を防止するための適切な母子感染予防対策を実施することにより、現在では母子感染率を0.5%未満にまで低下させることが可能となっています。

☆ ジグソー活動に向けて説明できるよう、教科書やこの資料から分かることをまとめておこう！

※ 代表的な3つの感染経路について説明できるようにまとめてみよう。

(1) 性行為による感染

(2) 血液感染

(3) 母子感染

Step 1

エキスパート活動C

「エイズの予防法は？」

資料は、『厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業「H I V検査相談の充実と利用機会の促進に関する研究」(研究代表者：加藤真吾)』より抜粋

<H I V感染を予防するには？>

H I Vは血液、精液、膣分泌液などに多く分泌されますので、それらの体液が粘膜や傷のついた皮膚に触れないようにすることが必要です。

(1) 性行為による感染の防止

確実に防止できる方法は「性行為をしない」ことです。しかし、現実には無理であり一番多い感染経路である性行為によるH I V感染を防ぐためには、必ずコンドームを使用すること、また、相手に使用してもらうことが重要です。

(2) 血液感染

輸血、注射器・注射針の共用による麻薬の回し打ち、医療現場による針刺し事故などから、感染者の血液が他のヒトの血管中に侵入することにより感染が成立します。現在、日本赤十字社においてすべての献血血液について非常に厳格なH I V検査を実施しているため、感染の危険性は極めて低いです(ただし、献血のH I V検査結果は献血者本人にはお伝えしていません)。医療現場による針刺し事故は主として医療従事者に起こりえますが、注射針の安全な取り扱い、適切な廃棄、また、万が一、H I V感染者の血液により暴露事故が起こってしまった場合には、2時間以内に抗H I V薬の予防内服を行うことによって、感染の危険性を低下させることができます。

(3) 母子感染

母子感染は、出産時の産道感染、母乳哺育による感染、胎内感染があげられます。このため、母子感染を防止するためには、(1)妊娠初期のH I V検査実施による感染診断、(2)妊娠中の抗H I V療法、(3)陣痛発来前の選択的帝王切開術、(4)帝王切開時のA Z T点滴投与、(5)出生児へのA Z Tシロップ予防投与、(6)出生児への人工乳哺育などの適切な母子感染予防対策を実施することにより、現在では母子感染率を0.5%未満にまで低下させることが可能となっています。

☆ ジグソー活動に向けて説明できるよう、教科書やこの資料から分かることをまとめておこう！

※ 代表的な3つの感染経路それぞれの予防方法について説明できるようまとめてみよう。

(1) 性行為による感染

(2) 血液感染

(3) 母子感染

※ HIV感染のまん延を防ぐための個人的な対策や社会的な取り組みについてまとめてみよう。

(4) 個人的な対策

(5) 社会的な取り組み

1 題材名 いいタッチ わるいタッチ

2 題材設定の理由

本題材は、大切な自分の体を守ることや自分を大事に思ってくれる相手からの「いいタッチ」と自分を大事に思っていない「わるいタッチ」について考え、よりよい行動ができるようになるための学習である。大切な体のことを知ったり、自分や自分以外の人と適切な関わりができるようになったりすることは、心と体の成長が著しい思春期をむかえる前に必要である。また、学習したことを学校から家庭に伝えていくことで、学校と保護者が児童の実態に合わせた声かけもでき、よりよい行動につなげていくことができる。

指導にあたっては、絵本の読み聞かせをしながら学習を進め、児童が「いいタッチ・わるいタッチ」について、自分の考えを持てるようにしていきたい。「わるいタッチ」をされた時の気持ちを絵本のイラストを見ながら考え、「わるいタッチ」をされたらどう行動したらいいのかを考え、行動化につなげていく。そして、「わるいタッチ」の場面と「いいタッチ」の場面を照らし合わせ、「いいタッチ」は、相手のことを大切に思っている行動だということを理解できるようにする。さらに、絵本で学習したことをもとに、児童の生活場面での様子を写真などで振り返り、適切な行動ができるようにしていきたい。

3 題材目標

- プライベート・ゾーンについて知ることができる。
- 「いいタッチ」「わるいタッチ」をされた時の気持ちを考え、その後の行動について考えることができる。
- 友達や家族との関わりを考え、行動に移すことができる。

4 指導計画

	日時	活動内容
第1次	○月○日 学活	大切な体（プライベート・ゾーン）について
第2次第1時 (本時)	○月○日 学活	「いいタッチ」「わるいタッチ」について考えよう
第2次第2時	○月○日 学活	自分の行動を振り返ろう

5 本時の目標

- 「いいタッチ」「わるいタッチ」について知ることができる。
- タッチされた人の気持ちを考え、その後の自分の行動について考えることができる。

6 展開

学習活動	指導者の支援及び留意点 ◎評価
1 始めの挨拶をする。	
2 「わるいタッチ」をされた時の気持ちについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「わるいタッチ」をされた時、自分ならどんな気持ちができるのかを考えられるように、吹き出しをつけたイラストを提示する。 ・「わるいタッチ」をされた時の気持ちを表現しやすいように、気持ちとその表情が書かれているカードを用意する。
3 「わるいタッチ」をされた時、どうすればいいのかを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「わるいタッチ」をされた相手に自分の気持ちを伝えることも大切だが、身近にいる大人に相談してもいいことを確認する。 <p>◎自分にできることを考え、発表することができる。</p>
4 「いいタッチ」をされた時の気持ちについて考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が発表した気持ちと表情カードを照らし合わせ、「いいタッチ」は、相手のことを大切に思っていることを確認する。
5 先生の話聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ・指導者の体験談の中に、相手が喜んでくれた行動と悲しませてしまった行動を入れ、学習したことを行動化できるように日常生活につなげる。
6 おわりの挨拶をする。	

7 参考図書

「いいタッチ わるいタッチ」だいじょうぶの絵本2 岩崎書店

實踐編

(保健指導)

1 題材名「からだをきれいに」（内容（2）－カ）

2 題材について

○学習指導要領及び解説の位置づけ

（1）学級を単位として、仲良く助け合い楽しい学級生活をつくとともに、日常の生活や学習に進んで取り組もうとする態度の育成に資する活動を行うこと。

〔第2－2－第1学年及び第2学年〕

（2）心身ともに健康で安全な生活態度の育成〔第2－共通事項－（2）－カ〕

（3）育成する態度として

- ・問題の解決方法について考えることができる
- ・正しい方法や自分にあった方法を選ぶことができる
- ・目標をもって努力することができる

○題材設定の理由

本題材は、心身ともに健康で安全な生活態度の育成に関わる内容である。1年生の児童は小学校入学前から手洗い等の必要性や方法を教わってきてはいるものの、実践にうつすことがなかなかできず、汗をかいてもそのままにしていたり、水でぬらすだけの手洗いをしていたりする姿がみられる。そこで、体を清潔にすることの大切さを知り、その方法について話し合い、自分の目標を決めて実践していくことが必要であると考え、本題材を設定した。

3 指導計画

	日 時	活 動 内 容
本時	○月○日 第○校時	<ul style="list-style-type: none"> ・体を清潔にすることの必要性を知る。 ・体のどの部分が汚れやすいかを考える。 ・体を清潔にする方法を考え、話し合う。
事後	随時	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や家庭で、体を清潔にする方法を実践する。

4 本時の学習

（1）目標

全体での意見交換を通して、体の汚れやすい部分を知り、汚れを落とす方法や手洗いの仕方を実践しようとする意識を持たせる。

（2）展開

	指導のねらいと内容	教師の支援
導 入 (5分)	1 日ごろの手洗いや入浴の様子を振り返る。	○当日の給食前や掃除の後などに手を洗ったかどうかをたずねるところから日頃の様子を振り返らせ、本時のめあてにつなげる。

		からだをきれいにするほうほうをかんがえよう
展 開 (30分)	<p>2 体のどこが汚れやすいかを考え、全体で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・髪の毛、耳、耳の後ろ、首、手、つめ、わき、おしり、足のうら など <p>3 なぜ、汚れたままではいけないのかについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ばい菌がつく、病気になりやすい、においがする、部屋が汚れる など <p>4 どうすれば体がきれいになるかについて考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お風呂では、頭や耳の後ろなどもしっかり洗う。 ・お風呂では、石けんをつけてタオルでいねいに洗う。 ・ご飯を食べたら歯をみがく。 ・下着を毎日とりかえる。 ・手洗いの時は、指の間やつめの間、手首なども洗う。 <p>5 手洗いの方法を全員で確認し、手洗いの動作を試してみる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシート（男女の絵）を使って体の汚れやすい部分を丸で囲ませ、視覚的に捉えやすくする。 ○黒板に貼った男女の絵に、汚れマークのマグネットを貼らせていき、全体で共有する。 ○体を清潔にすることは、健康な生活を送るために大切であることに気づかせる。 ○児童の考えを共感的に受け止める。 ○ふだんしていることを思い出したり、もっとした方がいいと思うことを考えたりさせて、紹介し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ○手洗いの仕方を、6つのポイントを示しながら全員で確認し、他の部分の洗い方にも応用できるようにする。 ○アトピー性皮膚炎等の児童もあることに配慮し、洗い方は一律ではないことをおさえる。
ま と め (10分)	<p>6 各自が本時の振り返りをし、今後実践することをワークシートに記入する。</p> <p>7 決めたことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートに記入させ、実践に向けて具体的に決められるようにする。 ○一人ひとりの発表の内容を認め、意欲づけをする。

5 資料等

黒板掲示（おとこのこの絵、おんなのこの絵、入浴のイラスト、手洗いの6つのポイント）、「汚れマーク」のマグネット、ワークシート

第2学年 学級活動（保健指導） 指導案

1 題材名 学級活動「おへそのひみつ」

2 題材について

題材を通し、誕生前から現在に至るまでの自分の成長を知らせ、様々な人が自分を支えてくれたことに気付かせ、感謝の気持ちを持たせたい。また、その気持ちを家族に伝えることを通して自己肯定感の育成や豊かな人間関係づくりの礎としたい。

本題材は、「おへそ」の働きを知ることを通して赤ちゃんがおなかの中にいる時のことを学習する。自分がお母さんの胎内で成長していたことや、自分の命が生まれる前から大切にされていたことを知り、自分や友達のを大切にすることをねらいとする。

3 指導計画

	日 時	活 動 内 容
事前		保護者に子どもあてのお手紙、おなかにいる時のアンケートを書いてもらっておく。
本時	○月 ○日 第 ○校時	学級活動「おへそのひみつ」
事後		生活科「自分はっけん」 自分のこれまでの成長を調べ、小さい頃の様子や、自分に対する家族の思いを知る。

4 本時の学習

(1) 目標

へその緒の役割を通して、自分が誕生するまでには、お母さんのおなかの中で母親や家族の愛情によって大切に育てられたことを知り、周りの人への感謝の気持ちを持ち、命を大切にすることを育てる。

(2) 展開

	指導のねらいと内容	教師の支援
導 入 (8分)	1 おへそについて学習することを知る。 2 おへそのあるなしクイズをして、関心を持ち、おへその働きを考える。 ・おへそがあるものとないものがあるね。 ・おへそは何のためにあるのかな。	○様々な生き物の絵を掲示し、児童がおへその存在に関心が向くようにする。

おへそはどんなはたらきをしていたのでしょうか。	
<p>展開 (27分)</p>	<p>3 赤ちゃんがお母さんのおなかの中でどのように成長するか確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんにつながっていたんだ。 ・栄養や空気をもらうんだね。 <p>4 生まれてくる赤ちゃんへの家族の思いを、アンケートや手紙で知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・赤ちゃんが元気に育つように食べるものに気をつけていてくれたんだ。 ・おなかが大きくなって大変だったけれど、守ってくれていたんだね。 ・お母さんだけでなく、家族みんなが大切に思っていてくれたんだ。 ・ぼくは1番の宝だって、うれしいな。
<p>まとめ (10分)</p>	<p>5 家族へのお手紙の形で本時の感想を書き、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お母さんのおなかにいる時に、空気や栄養をもらっていたんだね。ありがとう。 ・へその緒でぼくとお母さんはしっかりつながっていたんだね。 ・わたしを大事にしてくれてありがとう。わたしも自分やお友達を大事にするよ。 <p>○初めて知ったことや学習後の気持ちを、家族への感謝の気持ちを込めながら書くようにする。</p> <p>◇へその緒の役割を通して、自分がおなかにいる時から大切にされてきたことを知り、自分や友達の命の大切さを理解している。 【観察、発表、ワークシート（手紙）】</p>

5 資料等

- ・ 掲示物
お母さんのパネル等
- ・ 事前のアンケート（お家の人記入）
- ・ ワークシート（児童よりお家の人に向けた手紙）

今日の学びゆうで、はじめて知ったことやうれしかったことを、おうちの方につたえましょう。



()より

第3学年 学級活動（保健指導） 指導案

1 題材名「命のふしぎ」

2 題材について

本題材は、自分の命が何年にも渡り、たくさんの人によって引き継がれてきた大切な命であることに気づき、命のつながりを知るものである。父母だけでなく、祖父母や祖先に対する感謝の気持ちを持ち、今後も自分を大切にしようという気持ちが高まるようにしたい。また、自分に限らず、周りの友達も自分と同様に大切に引き継がれてきた命であることに気づくことができるようにしたい。

3 指導計画

	日 時	活 動 内 容
本時	○月○日 第○校時	命のもとがいっしょになって命が生まれることを知り、かけがえのない自分の命や他の人の命を大切にし、よりよく生きようとする。
事後	随時	

4 本時の学習

(1) 目標

自分及び周囲の人の命は何年にも渡りたくさんの人によって引き継がれてきたかけがえのないものであることを知り、自他共に大切にすることを育てる。

(2) 展開

	主な学習内容	教師の支援																					
導 入 (5分)	1 挿絵の家族と似ているところを見つける。 ・この家族はどこどこが似ていますか。 <table border="1" style="margin-left: 40px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>目</th> <th>鼻</th> <th>口</th> <th>髪</th> <th>顔の形</th> <th>ほくろ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>男子</td> <td>母</td> <td>母</td> <td>父</td> <td>父</td> <td>父</td> <td>母</td> </tr> <tr> <td>女子</td> <td>父</td> <td>母</td> <td>母</td> <td>母</td> <td>父</td> <td>父</td> </tr> </tbody> </table>		目	鼻	口	髪	顔の形	ほくろ	男子	母	母	父	父	父	母	女子	父	母	母	母	父	父	・家族の挿絵を提示し、表にまとめる。
	目	鼻	口	髪	顔の形	ほくろ																	
男子	母	母	父	父	父	母																	
女子	父	母	母	母	父	父																	
展 開 (35分)	2 自分が家族の誰かに似ているわけを考える。 3 命のもとの説明を聞く。	・命のもとにはそれぞれ情報が入っていることを知らせる。																					

<p>展開 (35分)</p>	<p>4 プライベートゾーンを大切にするわけを考える。</p> <p>5 自分の命に何人くらいの人がつながっているのか考える。 ・お父さんから生まれていないのに、お父さんに似ているのはなぜだろう。 ・命のもとがあるから。 ・お父さんとお母さんから何か分からないけどもらっているから。</p> <p>6 自分の命に何人くらいの人がつながっているのだろう。 ・1世代では・・・2人 ・2世代では・・・4人 ・3世代では・・・8人 ・4世代では・・・16人</p>	<p>・命のもとがどこでつくられるか知らせ大切にするよう伝える。 (プライベートゾーン)</p> <p>・挿絵を示しながら、具体的に数えていく。 ・詩「自分の番 いのちのバトン」を読み、自分の命にたくさんの人たちがつながっていることを伝え、大切に引き継がれていることをおさえる。</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>7 自分の命は、たくさんの人の命とつながっていて、かけがえないものだ実感する。 ・絵本「いのちのまつり」を聞く。 ・今日の学習で感じたことを、ワークシートにまとめる。</p>	<p>・絵本「いのちのまつりの読み聞かせをする。</p>

5 資料等

挿絵 (家族、おじいさん、おばあさん、男の子、女の子)

似ていること (表)

ワークシート

詩「自分の番 いのちのバトン」

絵本「いのちのまつり」



1 題材名

- 第1時：本当のことを知っていますか？～エイズ・性感染症について～
- 第2時：将来の夢や希望に向かって

2 題材の目標：将来、全ての子どもが自分の長所を伸ばし、自分らしく輝いて生きることができる。

- 第1時・・・エイズや性感染症について学習し、誰にでもリスクがあることに気づくことができる。
- 第2時・・・自分自身のことや将来のことなどについてのグループワークを通して、人と人とのつながりは時間をかけた丁寧な関わりが大切だということに気づくことができる。

3 題材について

○題材設定の理由

「丁寧な人間関係の大切さ」の気づきを目指す「人間基礎教育」を教育の土台とし、その上に、直面する問題に生徒が自分たちで対処できるように支援するための「危機管理教育」があり、最終的には「夢と希望を持てる子どもを育てる」教育である。1・2年で積み上げてきた性に関する指導を、知識の提供だけでなく、生徒自身の意識や行動を変える学習の機会としたい、また、性の問題を自分自身の問題だと考えさせたいと考え、本主題を設定した。

○本題材の指導

第1時では、プレゼンテーション教材を使い、エイズや性感染症について正しい知識について学習し、誰にでもリスクがあることに気づかせたい。第2時では、自分や友達の夢などについてグループワークをすることを通し、将来の夢や目標の達成には、困ったときに相談できる身近な人の支えが大切なこと、人と人とのつながりは時間をかけた丁寧な関わりから築かれるものであること、より充実した生き方を実現するためには自分の長所を伸ばし、短所を補い、自分を大切にすることが大切であることに気づかせたい。

4 指導計画

	日 時	活 動 内 容
事前	○月○日	事前アンケートの実施
本時	○月○日 ○校時	第1時：エイズ・性感染症について 第2時：将来の夢や希望に向かって
事後	○月○日	事後アンケートの実施

5 展開

○第1時

	指導のねらいと内容	教師の支援
導入 (5分)	1 導入クイズを行う。 ・精神的にリラックスさせる。 ・授業を受けるモチベーションを上げる。	・グループで考えさせる。 ・①～③の札を各グループに1つずつ用意する。 ・質問は最後に用紙に書いて回収することを伝えておく。
展開 (40分)	2 エイズ、H I Vについてクイズを交えながら学習する。 ・エイズ、H I Vについての基礎知識や日本や世界の感染現状について理解させる。 3 人工妊娠中絶について学習する。 ・人工妊娠中絶の日本や鳥取の現状について理解させる。 4 性感染症についてクイズを交えながら学習する。 ・性感染症についての基礎知識や日本や10代の感染現状について理解させる。 5 性感染症に将来かかる危険があるかどうか、予防するためにはどうしたらいいかについてグループワークを行う。 ・性感染症を身近な問題だと捉え、予防するためにどうしたらいいか考えさせる。	・パワーポイントで進める。 ・事前アンケートの結果から生徒の実態をよく把握し、行動段階に合った内容で進める。平均的な生徒より少し下の生徒に合わせた内容にする。 ・世界や日本、鳥取などの数値はグラフで表し、身近な問題だと感じられるようにする。 ・クラミジアについては、途中でビデオも入れ、より理解しやすいようにする。 ・性感染症の予防方法についていくつか例をあげるが、どれも絶対に予防できるというものではないということも伝える。 ・性感染症についてのグループワークの際には、これから先の自分自身の課題だと捉えさせ、じっくり考えさせる。
まとめ (5分)	6 ゆっくり、じっくり、ていねいに人間関係を築いてほしいということを伝える。 ・最後のまとめとして、よい人間関係を築いてほしいということを伝える。	・1年生の時の「いのちの講演会」の写真を入れ、いのちの大切さについて振り返ることができるようにする。 ・「粗末ないのちはない」「自分や周りの人を大切に」「ゆっくり時間をかけて人間関係を築いてほしい」など、伝えたいメッセージをしっかりと生徒に伝わるように、気持ちを入れて伝える。

○第2時

	指導のねらいと内容	教師の支援
導 入 (5分)	1 「いいところ見つけ」のグループワークを行う。 ・精神的にリラックスさせる。 ・グループ内の雰囲気作りをする。	・グループワークを行い、気分を落ち着かせる。 ・授業で行うグループワークがスムーズに進むようにする。
展 開 (40分)	2 理想の結婚相手を想像し、ワークシートに記入する。 ・各グループで意見を交換する。 ・事前にとっておいたクラスアンケートの結果を発表する。(結婚相手はどんな人がいいか、どんな家庭を作りたいか) ・今から10年後の25歳に自分は何をしているのか想像し、ワークシートに記入する。 ・各グループで意見を交換する。 ・数人、発表する。 3 自分、そしてみんながそれぞれ、未来に対して様々なイメージや理想、夢を持っていることを理解する。 4 未来のために今、自分がすべきことは何かを考え、ワークシートに記入する。 ・各グループで意見を交換する。 ・数人、発表する。 ・自分、そして周りの人たちの未来のために、今、自分は何をするべきなのかを考え、自分、相手を大切にし、正しい行動選択ができるようにする。	・自分でじっくり考えたり、グループの友達の意見を聞いたりすることを通して、自分や友達みんなには夢や未来が待っていること、その未来のために今すべきことは何かを前向きに、しっかりと考えることができるように展開していく。 ・セクシャルマイノリティの生徒や虐待を受けていた生徒など、様々な生徒がいることを念頭に置き、使う言葉に十分注意する。(男性・女性→相手 など) また、ワークの内容は、過去のことを考えたり思い出したりする内容ではなく、未来について考えることができる内容にする。 ・個人ワークの際には、書けないところは無理に書かなくてもいいことを伝えておく。 ・個人ワーク中やグループワーク中は机間指導を行い、ワークが止まっている生徒やグループには声をかける。
ま と め (5分)	5 メッセージビデオを見る。 ・学級担任からの一言メッセージを聞く。 ・今までの人生を振り返り、そして今後の人間関係について考える。	・生徒が生まれてきた奇跡、生まれてきてよかった、みんなに出会えてよかった、明るい未来を作っていこうと感じることができるものを作る。 ・最後の一言メッセージは、指示や命令・禁止はいれず、短く、言いたいことを一言で伝える。

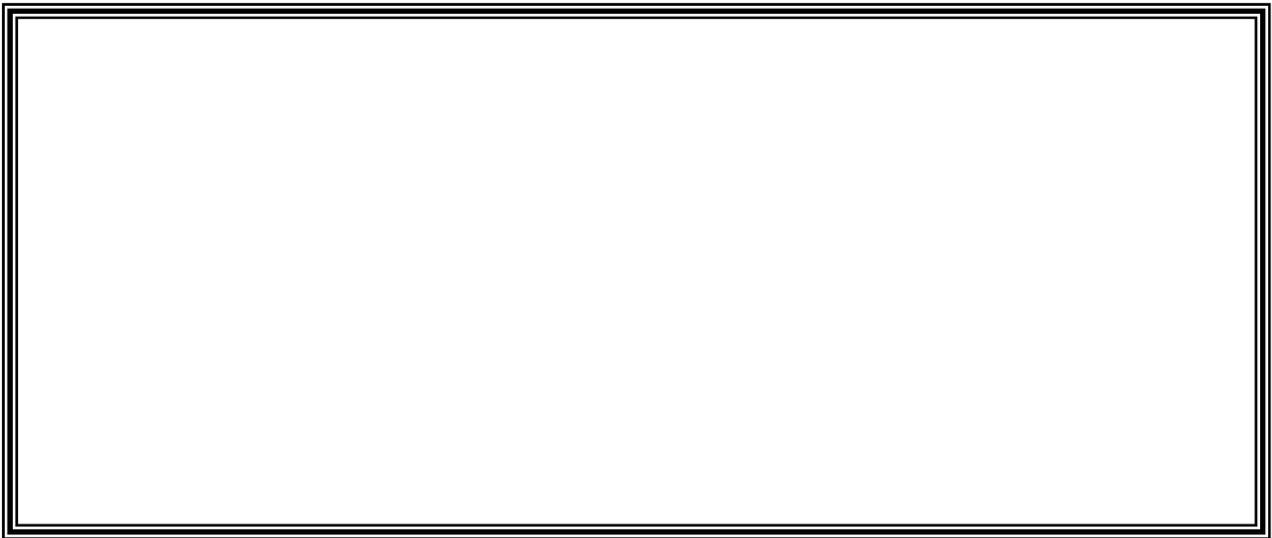
徹底調査!!

あなたが結婚相手に求めることは？

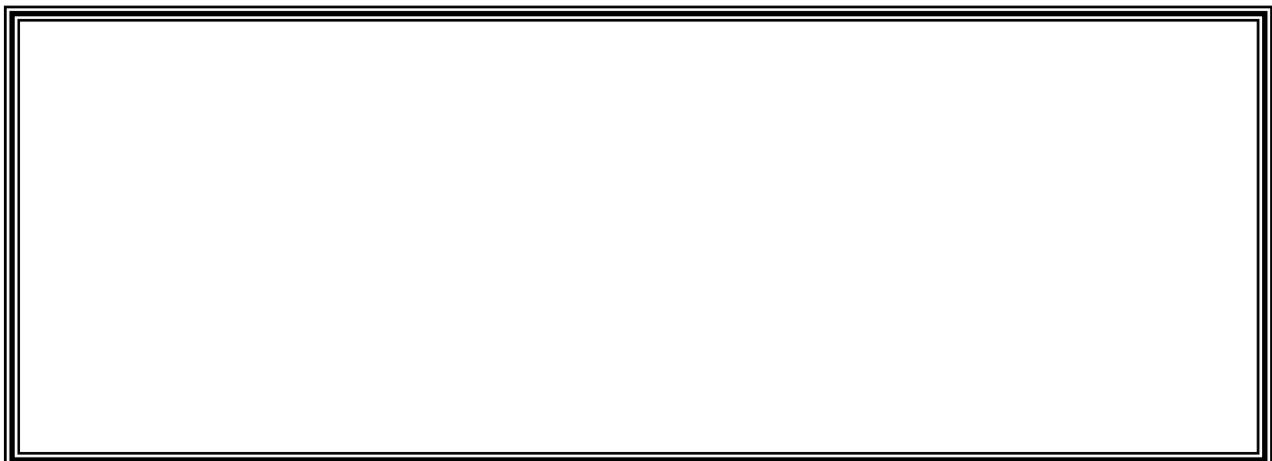
将来どんな家庭を作りたい？

★これから先、たくさんの人に出会います。友達、同士、ライバル、上司、同僚……。そして結婚相手……。

さて、ここでは、あなたが結婚を考えた時、その相手に求めることとは？
いくつでもいいです。書いてみて下さい。



★そしてこれから築いていくであろう家庭。どんな家庭をつくりたいですか？



1 題材名「スマートフォン等に潜む危険」～性被害者・加害者にならないために～

2 題材について

高度に情報化が進んだ今日、以前は保護者や学校・地域がフィルターとなってある程度危険な有害情報を遮断してきたが、SNS (social networking service) の普及により、自分のスマートフォン等を使って簡単に有害情報へ接続できる状況にある。このため、生徒が有害情報により犯罪に巻き込まれないように正しくスマートフォン等を利用する方法を学ぶとともに、危険を回避することができる適切な行動選択がとれるようにすることが大切であると考え、本主題を設定した。

3 指導計画

	日 時	活 動 内 容
事前	○月 ○日 SHR	スマートフォン等についてのアンケート調査
本時	○月 ○日 第 ○校時 LHR	スマートフォン等の様々な利点や問題点を理解して正しく利用する方法を学ぶとともに、性に伴う危険を回避することができる行動がとれるようにする。
事後	随時	

4 本時の学習

(1) 目標

スマートフォン等の危険性を理解し、正しく利用することを学ぶとともに、その危険性から自他の身を守る態度を身につけようとする。

(2) 展開

	指導のねらいと内容	教師の支援
導 入 (5分)	<p>1 新聞記事から犯罪に巻き込まれた事例について気づいたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性被害の実態を知る。 ・SNSや出会い系サイト、無料アプリの利用から危険に巻き込まれることがあることを知る。 	<p>○本時の学習内容を確認する。</p>
	<p>スマートフォン等に潜む性に伴う危険を回避するには、どのようなことに気をつけたらよいか考えよう</p>	

<p>展開 (35分)</p>	<p>2 事前アンケート結果の説明をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン等を利用した場合の利点と問題点についてグループで話し合い、発表する。 <p><利点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつでも、どこでも、誰とでも連絡が取れる ・さみしさや不安を紛らわすことができる <p><問題点></p> <ul style="list-style-type: none"> ・掲示板に嫌なことを書かれた ・思いが伝わらなかった（誤解された） ・知らない人から変なメールがきた <p>3 スマートフォン等を利用する上で性に伴う危険を回避する対処法についてグループで話し合い、発表する。</p> <p><対処法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険なサイトを見ない ・危険なサイトに書き込みをしない ・ネット上で知り合った人と会わない 	<p>○話し合いがしやすいように、事前にグループ編成に配慮する。</p> <p>○ワークシートに自分の考えを書いた後、グループで話し合うように指示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害者の場合もあれば加害者になることに気づかせる。 ・軽い気持ちで行ったことでも、法律に違反すれば、犯罪になる。 ・インターネット上の「足あと」をたどれば発信者や位置が特定される。 <p>【知識・理解】 スマートフォン等の利点や問題点を理解している。</p> <p>○対処法について、補足があれば行う。</p>
<p>まとめ (10分)</p>	<p>4 話し合ったことを振り返り、性の被害者や加害者にならないために注意することをワークシートに記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分の体を大切に」し、「自分を大切に思い」、「相手も大切に」という行動がとれるようにすることを理解する。 	<p>○本日の学習で気づいたことや自分が具体的にできることについて記入させる。</p> <p>【思考・判断・実践】 スマートフォン等に潜む危険に気づき、性に伴う危険に巻き込まれないような行動をとろうとしている。</p>

5. 資料等

事前アンケート内容

1. スマートフォンを持っていますか？
2. スマートフォンの他にSNSを利用できるツールを持っていますか？
3. SNSを利用しますか？
4. SNS利用で知らない人からメッセージを受け取ったことがありますか？
5. SNS上だけの友だちがいますか？

新聞記事

ワークシート

警察庁：出会い系サイト絶対NO！

<ワークシート> SNSに潜む危険 ～性被害者や加害者にならないために～

年 組 氏名 _____

1 新聞記事から気づいたこと

2 SNSや携帯電話の・・・

利点

問題点

3 性被害に巻き込まれないための対処法

4 本日の学習を振り返り、自分ができること

- 1 題材名 人との適切な距離を考えてみよう
- 2 題材目標 人との適切な距離について知り、実践しようとする態度を育てる。

3 題材について

本指導にあたっては、お互いが気持ちよく接するための適切な距離について学習していく。学習の中で家族と教師や友だちとの距離の違いを体感するために、視覚的に距離感をわかりやすくする大・小のフープを活用したり、ロールプレイを取り入れたりしながら楽しく学習を進める。

また、今後知識として知ったことを日常生活で活かせるように、日々の生活で折に触れながら振り返り、指導を継続していく。

4 学習過程

学習活動	教師の支援と留意点 ◆評価
1 あいさつをする。	1 姿勢を正してあいさつするように声かけをする。
2 先生の話聞く。	2 人と向き合う時、人と接する時など相手によって取る距離が違うことを話す。
3 相手との適切な距離について考える。 ・自分と教師 ・自分と友だち ・自分と家族	3 人との距離の取り方について、教師が悪い例を示す。 ・教師二人のうちの一人が生徒役や、生徒の友だちの役割を演じ、不適切な距離であいさつをしたり、話をしたりする。 ・生徒が良くない点を答えるのが困難な場合は、さらに極端な悪い例を示す。 ・人との距離を視覚的にわかりやすくするために、大・小のフープを使用する。 ◆適切な距離で接することによってお互いが気持ちよく過ごすことができることを確認する。
4 ワークシートに人によって距離の違いがあることをまとめる。	4 シールを利用して、記入しやすいワークシートを準備する。 ワークシートには生徒、友達、教師、保護者の顔写真を貼り自分のこととしてとらえられるよう工夫する。
5 実際に相手との適切な距離感を体験する。	5 考えやすいように、具体的なあいさつの場面を限定してロールプレイをする。 ・フラフープの大、小を使用して距離感を体感しやすくする。
6 あいさつをする。	6 姿勢を正してあいさつするように声かけをする。 ◆最後に姿勢を正してあいさつができたなら称賛し、次のあいさつへの意欲を高める。

5 資料等
掲示物

- ・相手との距離

ワークシート（人との距離を考えよう）

フープシール

フラフープ



フープシール



実践編

(その他)

1 単元名 総合的な学習の時間「生命の育み おひさまふれあい会」

2 単元について

現代日本では、自分自身の存在意義や将来に不安をもったり、他者への思いやりをうまく表せなかったりする人が増えてきていると言われている。また、少子高齢化・核家族化が進む中で、インターネット等の普及により擬似的・間接的な体験が増加する反面、人やもの、自然に直接触れるという直接的体験の機会が減少しているとも言われている。

5年生の発達特性としては、自分のことを客観的に捉えられるようになり、道徳性や性的特徴も大きく成長してくるが、発達の個人差が大きく見られることから、自己に対する肯定的な意識が持てず、劣等感を持ちやすくなる時期でもある。本校5年生は、明るく素直で、休み時間は男女一緒に遊ぶなど、日々仲良く過ごしている。友だちのよいところを見つけ、帰りの会等で伝え合う姿も見られる。しかし、発表で手を挙げる児童が限られていたり、自分の長所をなかなか見つけられなかったり、自己肯定感が高いとは言えない。

そこで、5年生の総合的な学習の時間では、理科を中心とする他教科とも関連させながら、1年間を通して、いのちあるもの、戦争と平和について学習を進めていくことにより、自分のもとよりすべてのいのちを尊ぶ気持ちを育てることを目標とし、「いのち」をテーマに学習を進めていくことを計画した。

その中心となる最初の学習が、本単元「生命の育み おひさまふれあい会（赤ちゃん交流会）」である。（※おひさまとは、本校校区内にある子育て総合支援センターのことである。）本校では、継続的な関わりを大切にして、いのちのぬくもりを知らせるために、この交流会を2回実施している。1回目の交流会で子ども達は、赤ちゃんの愛らしさに直接肌と肌でふれあうことにより、いのちのぬくもりや我が子に対する親の心情を感じ取り、自分の誕生に思いを馳せるだろう。そして、子ども達が自ら進んで赤ちゃん和交流しようとする気持ちが高まると考えられる。また、同じ子どもが同じ赤ちゃんと継続して関わることで、赤ちゃんの発達の様子が目に見えて理解できるだけでなく、「赤ちゃんは泣いたりぐずったりするけど、やっぱりかわいい」と、愛着形成も深まると考える。

第1回交流会に向けた事前学習では、受精してから母親のお腹の中でどんな成長を遂げるのか、誕生してからどんな発達を遂げるのかを学習し、生命の誕生がいかに奇跡的なものなのか、自分も赤ちゃんの頃に一生懸命生きようとしていたことにも気付くことができると考えられる。第2回交流会では、小学生主体となって会を進めていくことで、第1回交流会での気付きをもとに、赤ちゃんが喜ぶことは何かを子ども達自身で考え計画を立てたり、赤ちゃんの母親へ自発的なかわりを求めたりすることにつなげていく。この学習を通して、赤ちゃんのぬくもりを感じるとともに、母親の愛情にもふれ、自分や他者は愛されて育てられ成長してきたこと、たくさんの人に支えられていること、命の大切さを再確認できるようにしていきたい。

3 単元目標

○赤ちゃんや母親とのふれあいを通して、乳幼児の成長やいのちの尊さを実感したり、育児に関わる母親の愛情や苦勞を感じたりすることで、親への感謝とともに、自分も他者もかけがえのない大切な存在であることに気付くことができる。【自己の生き方】

○ふれあい遊びに向けた計画・準備を通して、調べたり考えたりしたことを表現したり、友だち同士でアドバイスし合いながら、互いのよさを生かしたりすることができる。

【コミュニケーション能力】

4 単元計画

【第1回交流会】

	日 時	活 動 内 容
事前	○月○日 総合	①生命の不思議について話を聞く（養護教諭） ・精子・卵子の大きさ ・受精の確率 ・胎児の成長…大きさ、重さ、体の発達 ②1～12ヶ月の発達について知る（子育て支援センター職員） ・ねんねの頃 ・首すわりの頃 ・寝返りの頃 ・はいはい、つかまり立ち、つたい歩きの頃 ③赤ちゃんとの接し方の練習（人形を用いて） ・赤ちゃんの抱き方 ・注意点（衛生面や服装） ・ベビーマッサージの仕方 ④当日の約束事について確認する
	○月○日 総合	絵本「命はみえるよ」の読み聞かせ（担任） ※及川和男：著 岩崎書店：出版社
本時	○月○日 第○校時	①自己紹介 ②ベビーマッサージ ③ふれあいやそび ④ふれあいタイム ⑤振り返り
事後	振り返り 総合	感想をワークシートにまとめる。 ・赤ちゃんと触れ合って感じたこと ・お母さんの赤ちゃんへの接し方から感じたこと ・お母さんの話を聞いて分かったことや驚いたことなど ・これからの自分に生かしていきたいこと

【第2回交流会】

	日 時	活 動 内 容
事前	○月○日 総合	①2回目の赤ちゃんふれあい会は、自分達を中心となって進行していくことを知る。(担任) ②赤ちゃんを喜ばせるために、ふれあいタイムで何ができるかを考える。(⇒おもちゃを作成することに決定)
		家の人にインタビューする。 ・自分が赤ちゃんのころ好きだった遊びやおもちゃは何か。 ・赤ちゃんが使うおもちゃを作る時に気をつけなければならないことは何か。
	○月○日 総合	①赤ちゃんの喜ぶ顔を見るために、どんなおもちゃを作りたいか考え、設計図をかく。おもちゃの名前を考える。 ②材料を集め、おもちゃを作る。
本時	○月○日 総合	①自己紹介(5年生) ②ふれあいあそび(子育て支援センター職員) ③おもちゃを使つてのふれあいタイム(5年生) ④振り返り(5年生)
事後	振り返り 総合	・ふれあいを通して感じたこと、学んだこと、今後の自分に生かしていきたいことなどワークシートにまとめ発表する。 ・お母さん方へお礼の手紙を書く。

5 本時案

【第1回交流会】展開

学習活動	教師の指導・支援	学習評価
1 グループごとに自己紹介をする。 ・名前だけでなく、自分の好きなことや頑張っていることなど一言添えて自己紹介する。	・グループを事前に作っておく。 ・子ども達から自己紹介するように促す。 ・会話が続いている児童には、お母さんから、名前、名前の由来、月齢、好きなことなどを聞くように促す。	
2 ベビーマッサージをする。 ・ラララぞうきん ・ぶんぶんぶん	・マッサージを体験する順番を事前に決めてさせておく。 ・自分がふれあう赤ちゃんの側で、お母さんがマッサージをする時のふれる強さや声のかけ方、その時の赤ちゃんの様子を観察するように声	

<p>3 ふれあいあそびをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いっぼんばし ・ こそこそむしくん <p>4 ふれあいタイム</p> <p>5 振り返り感想を伝え合う。</p>	<p>をかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 赤ちゃんが泣いた時はどうしたらよいのか、お母さんに聞くように支援する。 ・ グループを回りながら、なかなか触れあえていない児童に声をかける。 ・ 赤ちゃんにふれるのにためらっている児童には、声をかけながら一緒に赤ちゃんにふれる。 ・ 歌を歌いながらふれあうように声をかける。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 赤ちゃんを抱っこするときは、「抱っこしてもいいですか?」と聞いてから抱っこするように注意する。 ・ 自己紹介で聞けなかったことを質問するように促す。 (子育てをされていて大変なこと、嬉しいこと、楽しいこと、最近できるようになったことなど) <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流会を通して、初めて知ったことや感じたこと、次回楽しみなことを伝えるようにする。 ・ 発表できなかった児童については、グループの中で感想を伝えるように促す。 	<p>☆事前学習で学んだ赤ちゃんとうれあひ方を意識しながら、赤ちゃんやお母さんと交流している。</p> <p>【観察】</p> <p>☆赤ちゃんとお母さんのつながりの深さや、いのちのぬくもり、我が子への愛情や、自分と関連付けた感想を伝える。【発表】</p> <p>※事後指導で、ワークシートに振り返りを書き、発表する。【ワークシート・発表】</p>
--	---	---

【第2回交流会】展開

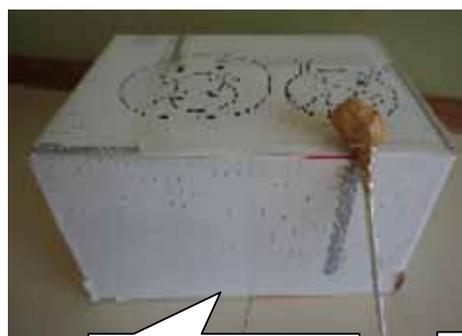
学習活動	教師の指導・支援	学習評価
<p>1 グループごとに自己紹介をする。 (子ども達が司会進行)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループは1回目の交流会と同じ。 前回ふれあった親子とできるだけペアになるようにし、1回目にふれあった時との違いを見つけながら関わるようにする。 ・ お母さんから、月齢、前回より出来るようになったことなどを聞くようにする。 ・ 時間配分を確認しながら、司会の子どもに声をかけるようにする。 	

<p>2 ふれあいあそびをする。 (支援センター職員さんが進行)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いっぽんばし ・ こそこそむしくん 	<ul style="list-style-type: none"> ・ マッサージを体験する順番を事前に決めてさせておく。 ・ お母さんが赤ちゃんにふれている時の表情や声かけの様子、その時の赤ちゃんの表情にも注目するように促す。 	
<p>3 ふれあいタイム</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 安全面・衛生面を考えた材質、重さ、赤ちゃんが喜ぶような色、デザインなど、作ってきたおもちゃの工夫したポイントをお母さんに紹介してから、赤ちゃんに手渡すようにする。 ・ 遊んでいる時の赤ちゃんの表情や反応、お母さんの様子を観察するように指導する。 ・ ふれあいながら、普段の赤ちゃんの様子などを質問するように促す。 <p>(子育てをされていて大変なこと、嬉しいこと、3ヶ月たってできるようになったこと、最近困っていることなど)</p>	<p>☆3ヶ月たった赤ちゃんの成長を見つけながらふれあったり、お母さん方に子育ての話を聞いたり、意欲的にかかわろうとしている。</p> <p>【観察】</p>
<p>4. 振り返り 感想を伝え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流会を通して、嬉しかったことや驚いたこと、前回と比べた感想などを伝えるようにする。 ・ 自分たちのふれあい方の振り返りに生かせるよう、お母さん方からの感想も聞くようにする。 	<p>☆自分の作ったおもちゃに対する赤ちゃんの反応や、3ヶ月たった成長ぶりを見て嬉しかったことや、感じたことを伝える。</p> <p>【感想】</p> <p>※事後の振り返りでは、今後の自分の生き方について考え伝え合う。</p> <p>【ワークシート、発表】</p>

赤ちゃんふれあい会に向けて



いよいよ、第2回おひさまふれあい会が今週の金曜日にせまってきました。子ども達は、この日をとても楽しみにしていて、「早く金曜日にならんかなあ」「この間ふれあった赤ちゃん、来るかなあ」「どれくらい大きくなっとるかなあ」とロタにつぶやいています。前回のおひさまふれあい会では、ベビーマッサージをお母さんと一緒に行いながら、赤ちゃんといふれあったのですが、今回のふれあい会では、子ども達が作ったおもちゃを持って行き、一緒に遊ぶ予定です。先週は、保護者のみなさんにも協力していただき、「赤ちゃんがどんなおもちゃを好むのか」「どんなことに気がつけたらいいのか」などインタビューをして聞いてきたことをもとに、どんなおもちゃを作るのか設計図を描き、子ども達は準備していきました。昨日は、その作ってきたおもちゃを一人一人紹介していきました。



箱で作った太鼓♪



フェルトに綿を詰めて作ったぬいぐるみ♪



いろいろなガラガラ♪

「赤ちゃんが持っても重たないように、軽めを意識したガラガラ」「音の出るのが好きだから」「叩くのがおもしろくて好きだから」「当たっても痛くないようにやわらかく!!」「カラフルな色が好きだから」「角が丸くなるように意識しました」「赤ちゃんの好きなアンパンマンの絵にしました」「にぎったりはがしたりするのが好きだからマジックテープをつけました」「口に入れないように大きめに」など、家で聞いてきた赤ちゃんの特性をふまえて、工夫したおもちゃがたくさん完成していて感心しました。「〇〇さんのおもちゃすごい!!」「かわいい〜♪」「それ欲しい〜」と、互いに作ったものを褒め合いながら作っている様子は、なんとも微笑ましかったです。12日の金曜日、赤ちゃんがどんな反応をするのか、とても楽しみです。



1 テーマ 学級活動「命と体を見つめてみよう」

2 題材について

中学生のこの時期は、多くの生徒が第二次性徴をむかえて自分の心身の変化を感じ、異性への興味や関心が高くなる。思春期という心身の状態が不安定な時期でもある。

また、情報機器の普及によりスマートフォンなどを所持する生徒が増え、子ども達のまわりは不正確な情報や好ましくない情報が氾濫している。命を軽視するかのようなバーチャルな世界に慣れ、命の大切さを実感できず、自己中心的な言動で人を傷つけたり人間関係のトラブルを抱えたりする生徒も増えつつある。

このような生徒の実態から、互いに異性についての正しい理解を深め、相手を思いやる気持ちを育てるとともに、命の尊さを知り、自分が生まれてここまで成長してきたことに対する感謝の気持ちを持たせたいと考えた。この学習を行うことで、生徒ひとりひとりが自他の命や体を大切にし、自尊感情を高め自信を持って生活できるようになることを期待したい。

3 指導計画

日 時	活 動 内 容
○月道徳	正しい異性理解 2 - (4) アイツとセントバレンタインデー
○月学活 2. 3 校時 (本時)	学級活動 (2) 適応と成長及び健康安全 ク 性的な発達への適応 講演会「いのちとからだを見つめてみよう」 評 価 生徒感想用紙 *事前打ち合わせ (職員) 生徒の実態をふまえ、生徒につけたい力や学習内容について話し合い、本時目標を設定する。 (講師) 本時目標と内容について確認する。生徒の実態および生徒につけたい力について共通理解し講演内容を確認する。

4 本時目標

- (1) 互いに異性についての正しい理解を深め、相手を思いやる気持ちを持つ。
- (2) 生命誕生の奇跡と尊さを知り、ここまで成長してきたことに対する感謝の気持ちを持つ。

5 展開

	主な学習内容（生徒の反応）	○指導上の留意点 ◇評価
導入	<p>1 いのちはどこにあるか（心臓、脳、卵巣、精巣） いのちは誰のものか（自分、父母、祖父母） いのちの場所は限定されない。そして父母や祖父母からずっと引継がれ守られてきた大切なもの。</p>	<p>○漠然とした命の存在について考え 命の大きさに気づかせる。</p>
展開	<p>2 体と心の成長について考えよう</p> <p>①女子 月経のしくみ 卵巣が成熟し排卵→子宮は妊娠に備えて子宮内膜を厚くする→中学生は赤ちゃんを産まないのので不要となった内膜は血液と一緒に排出される。 子宮について…体の奥深く最も安全な場所に守られるように位置し、丈夫である。</p> <p>②男子 射精について 精子もとの細胞1個が4個の精子になる。精子の中には多くの遺伝子が存在する。射精直後の精子はすぐに行動を判断して動き出す。精巣は熱に弱いいため温度の低い体外にある。</p> <p>③心の成長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期は何歳からだろう（12歳、中学生頃） ・8歳頃から始まり、12～15歳がピーク。 ・親や大人への反抗心やイライラには個人差がある。 <p>3 いのちについて考えよう</p> <p>①受精の奇跡</p> <ul style="list-style-type: none"> ・卵巣から腹腔内へ排卵された卵子をラッパ管が吸い込むように卵管へ誘導。この奇跡がなければ卵子は子宮へたどり着けない。 ・数億の精子のうち卵子と受精できるのは1～2個。最初にたどり着いた精子は卵子にバリアを張り、次に来た精子が入れないようにする。 <p>②おなかの中の赤ちゃんの様子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体脂→羊水で体がふやけるのを防止 ・しゃっくり→横隔膜を動かす（呼吸）練習 ・羊水を飲む→母乳を飲む練習等 <p>*既に体外で生きるための練習をしている。</p>	<p>○男女の体に起こる体の仕組みの違いを正しく理解させる。</p> <p>○それぞれの体の機能が命の誕生のもとになり、どちらも尊重すべきものであることに気づかせる。</p> <p>◇互いに異性の体について正しい理解を深め、相手を思いやる気持ちを持つことができたか。（1）</p> <p>○思春期は心の状態が不安定になりやすい時であるが、大人になるための成長の過程であることがわかる。</p> <p>○命の始まりの奇跡と赤ちゃんとして生まれてくるまでの成長の様子を知る。</p>

	<p>③妊婦体験 妊婦体験グッズを着用し、体の重さの違いや日常の生活動作の違いを感じる。</p> <p>④子どもを産み育てること 母はしんどくてもがんばっておなかの中の赤ちゃんを育てる。赤ちゃんは家族の愛情を受けて育っていく。親にとって子どもの存在はかけがえのないものである。</p>	<p>◇自分が生まれてきたことの奇跡を知り、ここまで育てられたことに対する感謝の気持ちを持たせたか。 (2)</p>
ま と め	<p>4 生きることについて考えよう</p> <p>①人は、胎児の時はこぶしを握りしめ夢を握っている。誕生するとこぶしを緩めその夢を一度離す。人生とはその夢をつかみなおすために生きること。</p> <p>②あなたの夢は？この世に生まれてきた奇跡の命を大切にしたい、一人ひとりが夢をつかめるような日々の生活を送ってほしい。</p>	<p>○明日からの生活への前向きな気持ちを持たせる。</p>

感想用紙の記入：ふたつの本時目標が達成できているか感想の内容で評価する。

6 事後の取り組み

(1) 保健だよりの発行

講演の様子や講演後の生徒の感想を掲載する。

(2) 学校ホームページへの掲載

事前に保護者への参加案内文書を出していたので、事後、講演会の様子について情報提供を行う。

(3) 長期休業前の生活指導

生活指導の講話の中で講演会内容に触れ、命と体を大切にしたい過ごし方を指導する。

〇〇中学校保健室だよりの
すこやか 11号 2015年3月0日

3年生が卒業し、校内ががらんとして少しさみしい2週間でした。中学校は、一度に3分の1の生徒が卒業していくからそう感じるのか、それとも3年生がそれだけ存在感があつたのか・・・ともあれ卒業生の前進に幸あれと願っています。

さて、あすから春休みとなります。ちょっとした気のゆるみが事故につながることも多い時期ですので、交通安全に気をつけて生活してください。

すでに前1年生もやってきますから、先輩としてしっかりした心の準備も必要ですよ。「基本の生活リズム」と「バランスごはん」は、春休みも継続していきましょう。

2年生性教育講演会

～いのちとからだを見つめてみよう

19日に、2年生を対象とした性教育講演会を開催しました。

命はどこから来たのか？という質問に始まり、男女の体の違いや妊娠の仕組みについてお話を聞きました。また、「思春期」という切り口から、中2という不安定な時期に寄り添いながら、家族のあたたかさにも触れられた講演でした。生徒の感想を一部掲載します。

★今の自分があるのはお母さんのおかげだと思っていたけど、お父さんや家族のおかげでもあるんだとわかりました。これからもお世話になることはかなりなので親に感謝の気持ちを伝えたいと思いました。

★精子と卵子が出会うのに、とてもすばらしい経路があることを知りました。講演を聞きながら、子供が生まれたときの母や父の喜びや感動を見たような気がしました。

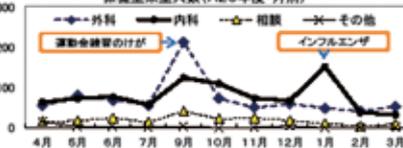
★僕は今、思春期真っただ中だから家族にいやな態度をとってしまうかもしれないことかもしれないけど、僕もそろそろ大人にならなければいけないなと思いました。

★一つの命が生まれるまでには、奇跡や多くの大変なことがあったことがわかったので、家族を大事にしたいと思いました。

★「命は誰のものですか」という質問がありました。僕は自分だけでなく育ててくれた人のものでもあると思うので、命を大切にしたいです。

保健室この1年

たくさんのご協力ありがとうございました！



スポーツセンター対応の

けが人数(昨年比較)



1 題材名 ホームルーム活動「それってホントの恋？」
～いい関係のお付き合いをするために～

2 題材について

講師の講演を聴き、デートDVの実態を知ることによって自分を振り返る。そして、グループワークをとおして、相手を大切にすることはどういうことなのかをテーマに、デートDVとはどのようなことなのか、デートDVに遭わないためにはどうしたらいいのかなど、具体的内容について学ぶ。

3 指導計画

	日 時	活 動 内 容
事前	○月 ○日 LHR	次週デートDVについて学習すること。ゲストティーチャーに指導を受けることを予告する。
本時	○月 ○日 LHR ○限	デートDVについてゲストティーチャーから学んだ後、Iメッセージでの返答の仕方についてグループワークをしながら考える。
事後	随時	事後アンケート結果を踏まえて、相手を大切にすることはどのようなことなのかを、人権教育を中心に学ぶ。

4 本時の学習

(1) 目標 デートDVに遭わないための対応を考えさせることができるようにする。

(2) 展開

	指導のねらいと内容	教師の支援
導 入 (5分)	1 ゲストティーチャーの紹介（鳥取県福祉相談センター鳥取県DV予防啓発支援員） 2 学習内容を確認する。 ・デートDVってどんなこと？ ・いい関係のお付き合いってどんなもの？	担任から、ゲストティーチャーを紹介する。 学習内容を確認する。
展 開 (80分)	3 あなたの恋愛観チェック ○各自、自分の恋愛観をチェックする。 4 デートDVとは ○男女別発生頻度 ○デートDVの種類 身体的暴力、言葉の暴力・心理的暴力、性的暴力、社会的暴力、経済的暴力 5 デートDVの実例から学ぶ	展開は、ゲストティーチャーを中心に授業を進める。

- 新聞記事を読んで、なぜデートDVが起こるのか、どのように対応するのかを学ぶ。
- 暴力を受けるとどのような思考になるのか。
- 加害者の気持ちはどうなのか。
- 力と支配の関係について
- ジェンダーについて

6 ケースからデートDVを学ぶ

- ケース（2例）（資料1）を担任と副担任で演じる。
 <クラスによっては、担任と生徒、生徒と生徒で演じる場合もあり>

7 グループディスカッション

【テーマ】暴力を使わない伝え方を考えてみましょう。

- ケース毎に「Iメッセージ」での気持ちの伝え方をグループで考えてみよう。
- 「Iメッセージ」で自分の気持ちを伝える言い方について考えるようアドバイスする。（資料2）

「Iメッセージ」で言うと、どのようになりますか？

- 各グループで考えた「Iメッセージ」を発表する。

8 事後アンケートの記入

- 今日の内容を、現在または将来のいい人間関係の参考にして欲しいことを伝える。



DVのDはドメスティック、英語で家庭のという意味、Vはバイオレンス=暴力という意味の略です。

<担任と副担任でケース紹介>パワーポイントの画像を見ながら、男子役と女子役に分かれてセリフを言う。（できるだけ役になりきって）



担任は机間巡視しながら、「Iメッセージ」について助言を行う。



担任は事後アンケートを配布し、今日のまとめとしてアンケートを記入すること、また、今日の授業を今後参考にして欲しいことを伝える。

まとめ
(5分)

5 資料等

資料1：デートDVのケース（2例）

資料2：ヒント「Iメッセージ」自分の気持ちを伝える言い方

事後アンケート

※資料等は全て鳥取県福祉相談センターからの提供である。

鳥取県教育委員会事務局人権教育課の人権学習講師派遣事業「デートDV予防学習会」の講師派遣により実施

はるととあかねのケース

暴力を使わない伝え方を考えてみよう！



はるとは自分の気持ちをどう伝えたらいいかな？



A large, empty rounded rectangular box for writing an answer to the question above.



第2章 実践編
(その他)

ゆうか と けんたのケース

暴力を使わない伝え方を考えてみよう！



ゆうかは自分の気持ちをどう伝えたらいいかな？



Blank space for writing an answer to the question: 'ゆうかは自分の気持ちをどう伝えたらいいかな？'



第2章 実践編 (その他)

★ヒント★

○「YOUメッセージ」 相手を責める言い方

○「Iメッセージ」 自分の気持ちを伝える言い方

例 「もっと協力してよ！」→

「協力してもらえると、私は助かるよ」

「あなたはこうあるべきだ」とか、相手を責める言い方は「Youメッセージ」といいます。相手を責めたい気持ちがあるときに、「なんで返事くれないんだ」のようなせりふが出てきます。感情のおもむくままに言葉を発すると、相手の「反発」を招いたり、拒絶されることになります。

逆に、自分を主語にして、自分の気持ちを伝える言い方を「Iメッセージ」と言います。楽しい、うれしいというポジティブな言葉ばかりでなく、悲しい、みじめ、くやしいという気持ちもとても大切な気持ちです。怒りの気持ちの奥には、悔しい、がっかり、などいろんな気持ちが隠れています。そんなネガティブな気持ちを抑え込まないで、言葉にして伝えてみよう。ただ「私」を主語に作文するだけでなく、どう言えば相手が受け入れやすいかをよく考えることが大切です。

★これは相手に自分の気持ちを伝える時の一つの方法です。他の伝え方を考えた人は、それも一つの良い方法かもしれません。その伝え方が相手と良い関係になるかどうか、相手の立場に立って考えてみよう。

それってホントの恋？～いい関係のお付き合いをするために～

今日は皆さんに「デートDV」「いい関係のお付き合い」についてお話をしました。これからはいろいろな場所でお話をするときの参考にしたいので、アンケートにご協力ください。

1. あなたの性別に○をつけてください。

男	・	女
---	---	---

2. ①～⑩の項目について、あてはまるところに○をつけてください。

	1 わかった	2 だいたいわかった	3 あまりわからなかった	4 わからなかった
① デートDVの実態	1	2	3	4
② 暴力の種類	1	2	3	4
③ 暴力のサイクル	1	2	3	4
④ 暴力が与える影響	1	2	3	4
⑤ 暴力はどんな理由があっても許されない	1	2	3	4
⑥ 力と支配	1	2	3	4
⑦ 自分らしさ	1	2	3	4
⑧ 暴力ではない方法を考えてみよう	1	2	3	4
⑨ いい関係の要素	1	2	3	4
⑩ 身近にデートDVがあったときの対応の仕方	1	2	3	4

3. もしよかったらあなた自身のことについて聞かせて下さい。

当てはまるところに○を付けて下さい。暴力の種類は複数回答可です。

あなたは今までに「デートDV」にあつたことがありますか？	はい	いいえ
それはどんな種類の暴力でしたか？	身体的、言葉、心理的、性的、社会的、経済的、暴力のサイクル	

あなたは今までに「デートDV」をしたことがありますか？	はい	いいえ
それはどんな種類の暴力でしたか？	身体的、言葉、心理的、性的、社会的、経済的、暴力のサイクル	

4. デートDVについて、どんなことを考えましたか。自由に書いてください。

ご協力ありがとうございました。

- 1 題材名 ホームルーム活動「思春期ピアカウンセリング、エデュケーション」
- 2 題材について

最も信頼できる仲間 (peer) が行う健康教育手法としてピアカウンセリング・ピアエデュケーションがある。これはヘルスプロモーションの理念に基づいている。

ここでの指導者に相当するのは、カウンセリング等の研修プログラムを受け、日本ピアカウンセリング・エデュケーション研究会の認定を受けた学生 (24歳以下) が思春期 (中学生～大学生) に個別・集団で実施するものである。

3 指導計画

	日 時	活 動 内 容
事前	○月 ○日 学活	養護教諭、学年団、ピアサークル (※1) との打ち合わせ。 実施上の留意事項、場所、物品等の確認。 大学生による授業があることを予告する。 グループ分けをし、グループ名をつける。 生徒各人にニックネームを自分で作り、名札を作る。 特に注意が必要な生徒は事前に学生に連絡。 (※1) ピアインハート：鳥取大学の学生サークル
本時	○月 ○日 第○～○校時 (2校時 連続)	80～90分 (休憩は対象生徒の状況により判断)。 ファシリテーターとして各グループに学生が1名入る。 生徒はニックネーム名札を付けて、事前に記入したライフライン、筆記用具持参で、約6～7名のグループ (※2) 単位で、ファシリテーター学生を中心に集合。(※2) 男女別、男女混合どちらでも可。 男女別は同性なので本音で話をするという利点、男女混合は異性の話を聞くことで相互理解ができるという利点がある一方で、本音で話ができないということもある。
事後	随時	生徒には事後アンケート結果を踏まえ、性と生の自己決定について理解できたのかを確認。 大学生と教職員で反省会を実施。大学生は気になる生徒、気になる発言等があれば報告し、また教職員は今後の活動上のアドバイス等をする。

4 展開

	指導のねらいと内容	教師の支援
導 入 (20分)	1 自己紹介 (5分) ;ピアメンバーはピアネームと今日の担当内容を紹介する。 2 アイスブレイク (15分) グループディスカッション (7分) ○仲間づくりをし、この場は生徒とファシリテーターで同じ仲間 (peer) として自由に語りあえる。安心な場であることを確認する。	以後、ピアサークルに任せる。教職員は介入しない。
	3 「性」の文字について (2分)	

<p>展 開 (55分)</p>	<p>○「性」は「心」と「生」からなる。「性」は、「いやらしい」「恥ずかしい」という概念ではなく、人間として重要なテーマであることの共通確認をする。</p> <p>4 愛の話 (好きな人と付き合う) (10分) グループディスカッション (5分)</p> <p>○好きな人と付き合うってどんな感じ? どんなことをしてみたい?かをグループで話し合う。その後グループで話し合ったことを発表、シェアする。</p> <p>5 ロールプレイ (20分) (1) デートDV ; 寸劇 (携帯電話の異性の連絡先を無理やり消去される) グループディスカッション (5分)</p> <p>○寸劇を見て、どう思うか、自分だったらどうするかについてグループで話し合い発表する。デートDVの解説をし、対応について学ぶ。</p> <p>(2) ネゴシエイト ; 寸劇・グループディスカッション (5分)</p> <p>○寸劇を見てグループで話し合い発表する。性的接触を求められたらどうするか?相手に拒否されたらどうするか?話し合いをし、色んな意見があることを知り、自分と相手の意見が対立した時どのように対処したらよいのか学ぶ。</p> <p>6 性感染症について (15分) グループディスカッション (5分)</p> <p>○性感染症の感染経路と拡大の仕方について手袋を使用して簡単に説明。その後グループで今までに学習した性感染症について話し合い発表。主な性感染症(クラミジア、淋病、AIDS)について簡単に解説する。</p> <p>○「コンドーム」の使用で感染予防できることを説明、使用上の注意を解説する。性的接触を推奨しているのではないことを伝える。</p> <p>7. 自己決定 (20分)</p> <p>○性的接触には色んな「責任」が伴うこと。今、本当に必要なことか、「自己決定」し、互いにしっかり考え、話し合い、自分の気持ちを相手に伝えることの重要性について学ぶ。</p>	
<p>ま と め (10分)</p>	<p>8. 振り返り : 朗読 (8分) ; 「愛の反対は無関心」「助産学生の体験 : 命の現場」等の朗読</p> <p>9. まとめ (2分)</p> <p>○自分自身を大切に、周りの人のことも大切にして欲しい。自分の将来について希望が叶えられるよう自分の行動をとることが重要であることを伝える。アンケート回答の依頼をする。提出はクラス担任へ。</p>	

5 資料等 : 写真 (高校でのエデュケーションの様子)



自己紹介



グループワーク



手袋を使った劇 (セクシャルネットワーク)